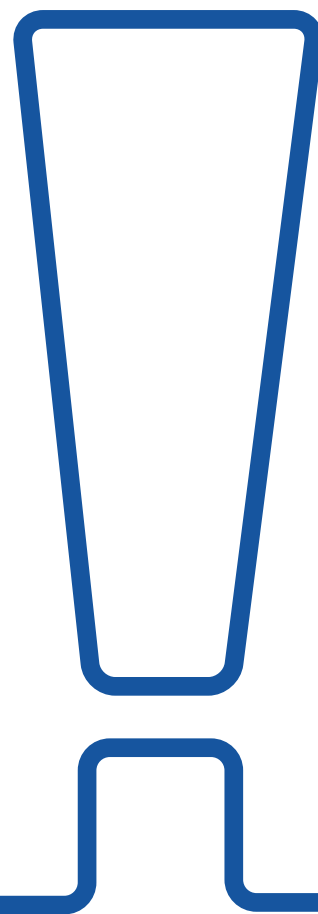


KOIZUMI

— 違う発想がある



Communication Report 2015

小泉産業グループ コミュニケーションレポート



グループ経営理念
新しい着眼と独自の発想で
新たな価値を創造し
人と社会に夢と感動をつくり出します



編集方針

小泉産業グループは、CSR（企業の社会的責任）活動を報告するため2004年から毎年レポートを作成しています。レポートには、目的とメディア特性に応じて、冊子とWEBサイトの2種類があります。

■ 冊子（本レポート）

本レポートは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションのさらなる活性化を目的に、当社グループと社内外のステークホルダーの皆様との“対話”を中心に編集しています。お客様や協力会社様をはじめ社外のステークホルダーの皆様からのご意見・ご要望を掲載するとともに、仕事に対する従業員の想いを多数紹介しています。また、「快適」、「環境」、「パートナー」、「人」の“4つのキーワード”を報告テーマとして設定し、本レポートで展開しています。

■ WEBサイト

当社ホームページでは、当社グループのCSR活動を広く公開することを目的に「社会と環境への取り組み」WEBサイトを設けています。サイトでは「グループ全体」に共通した取り組みと、ステークホルダーや事業内容が異なるグループ内の主要2事業である「照明事業」「家具事業」に分けて報告しています。また、それぞれ「社会」「環境」への責任と課題、それらに対する取り組みについて報告しています。<http://www.koizumi.co.jp/csr/>

報告対象組織

本レポートでは、持株会社である小泉産業（株）と国内事業会社4社、合計5社の取り組みについて報告しており、その詳細は以下のとおりです。

■ 小泉産業（株） ■ コイズミ照明（株）
■ コイズミファニテック（株） ■ （株）ハローリビング
■ コイズミ物流（株） ■ （株）ホリウチ・トータルサービス

報告対象期間

2014年4月1日から2015年3月31日まで。
（当社2014年度）

※一部、2015年度の内容を含みます。

発行日 2015年11月
（次回発行予定 2016年7月）

小泉産業グループについて

小泉産業株式会社

本社所在地 〒541-0051
大阪市中央区備後町3-3-7

代 表 者 代表取締役社長 梅田 照幸

創 業 1716年（享保元年）

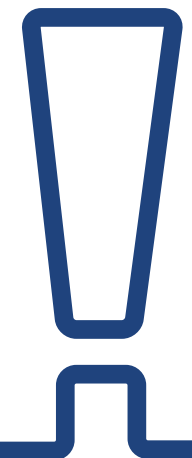
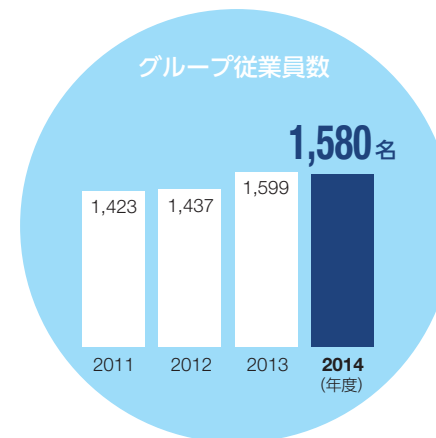
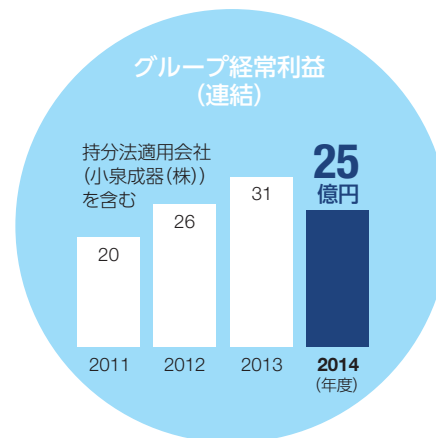
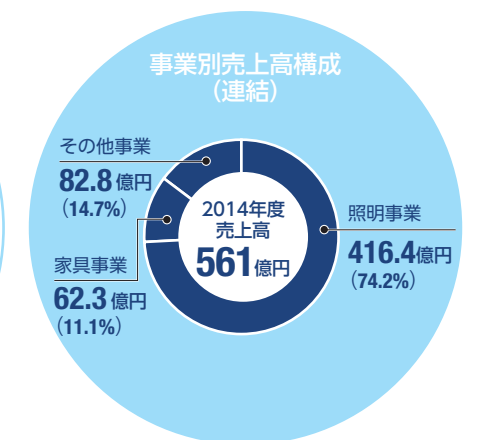
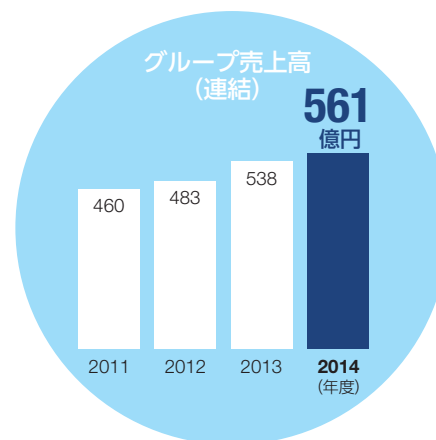
設 立 1943年6月25日

資 本 金 1,575百万円

従 業 員 1,580名（連結）

グループ会社 16社（うち連結対象12社）

売 上 高 56,163百万円（連結）



目次

- 1 グループ経営理念／編集方針／
報告対象組織／報告対象期間
- 2 小泉産業グループについて
- 3 小泉産業グループの事業
- 5 経営者からのメッセージ

特集

- 9 「違う発想がある」
2015年、KOIZUMIブランドを刷新しました
- 11 「違う発想」が紡ぐKOIZUMIブランドの歴史

コイズミ照明（株）の取り組み

- 13 「ザ・リッツ・カールトン京都」照明計画で
お客様の求めるイメージを理想的なカタチで表現
- 17 LEDの新たな可能性を追求し、
人と暮らしをより豊かに快適に

コイズミファニテック（株）の取り組み

- 21 小さいときも大きくなってからも、リビングでも
子供部屋でも、ずっと使える新スタイル
「STUDY UP DESK」を開発
- 25 学習家具の開発ノウハウと発想を活かし、
機能性に暮らし方の要素を加えたシニア向け
家具・書斎家具で新市場の開拓に挑戦

コイズミ物流（株）の取り組み

- 29 東大阪営業所を大阪営業所に移転し近接した
エリアに集約したことで物流効率化とコスト削減を実現

（株）ハローリビングの取り組み

- 31 豊富な施工実績とグループネットワークを活かし、
ストック物件のLED改修による省エネ化を積極的に推進

（株）ホリウチ・トータルサービス

- 32 FFEセットアップサービス事業で
多様な空間の付加価値づくりをサポート

小泉産業（株）の取り組み

- 33 児童養護施設で暮らし子どもたちに、
学習デスクの寄贈を続けています
- 35 社会から必要とされる人材創出のために
今、インターンシップに求められているものとは？
- 39 ステークホルダーへの責任と課題
- 40 KOIZUMI TOPICS
- 41 小泉産業グループ各社の概要



グループ全体で、快適な空間を提供します

照明事業

「あかり文化」の創造をめざして

住宅照明と店舗照明を事業領域に、照明器具の企画・開発から各種空間の照明設計までをトータルに展開。あかりによる快適な空間づくりを通して、新しい「あかり文化」の創造と省エネに貢献できる製品の提供をめざしています。

コイズミ照明株式会社

照明器具の企画・開発・製造・販売

コイズミ照明デバイス株式会社

照明器具部品の販売および輸出入、

照明器具組立

コイズミライティング株式会社

照明器具の製造

青垣コイズミ照明株式会社

照明器具の製造

小泉産業（香港）有限公司

照明器具の企画・開発・製造・販売

東莞小泉照明有限公司

照明器具の開発設計・組立製造・販売

克茲米商貿（上海）有限公司

照明器具の企画・販売

コイズミショウメイ（シンガポール）LTD.

照明器具の企画・販売



JSR株式会社 四日市工場本館（三重県）



コートカード・パイ・マリカッポ 東京駅（東京都）



関西国際空港 ウイング テクニカルツリー（大阪府）



東京新橋透視クリニック（東京都）



ポルシェ センター青山（東京都）



村岡小学校（兵庫県）



龍谷大学 深草キャンパス1号館（京都府）

家具事業

暮らしを「科学」し快適生活を提案

子どもの成長を支える「学習家具事業」を中心に、「書斎家具事業」「シニア家具事業」「ダイニング家具事業」を展開。人と暮らしを「科学」し、健康・安全と環境に配慮した製品・サービスを提供しています。

コイズミファニテック株式会社

学習家具、書斎家具、シニア家具、

ダイニング家具などの

企画・開発・製造・販売

小泉家具（大連）有限公司

学習家具の販売

中国地区の品質管理業務

コイズミサンギョウ（タイランド）LTD.

家庭用家具・店舗用家具・特注家具・

店舗用什器の企画・開発・製造・販売

ショウエイファニチャーLTD.

ダイニング家具の開発設計・製造



学習家具



シニア家具



書斎家具



ダイニング家具



コントラクト家具
がんこ寿司
（新大阪店）



物流事業

価値あるロジスティクスを創造

グループ内各社のロジスティクス機能を担う一方、培った経験とノウハウを活かし、幅広い業界のお客様に最適な物流ソリューションを提供しています。

コイズミ物流株式会社

物流事業・倉庫業・物流システム開発販売業務

住設販売事業

インテリアから家電、内装材まで

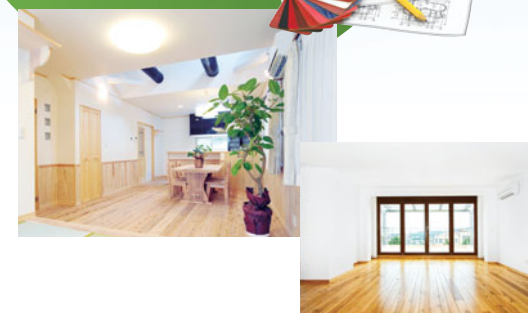
各種インテリア製品や内装材などの住宅設備機器の販売・施工サービス事業を全国に展開し、快適な生活空間をトータルに提案しています。

株式会社ハローリビング

住宅設備機器の販売・取付工事

株式会社サンシャイン

住宅設備機器の販売・取付工事



セットアップ・サービス事業

物流の枠組みを超えたサービスを構築

家具・什器・設備などの納品据付、設置のピフォアからアフターまで、さまざまな業界で役立つプロフェッショナルサービスを提供しています。

株式会社ホリウチ・トータルサービス

ホテル、会社施設等への家具・什器・

設備等の搬入設置業務



KOIZUMI 4 Keywords

小泉産業グループは、“4つのキーワード”で、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを広げていきます。

快適な暮らしのための
さまざまな製品・サービスで。

Comfort
快適

Ecology
環境

環境配慮型製品の開発と
事業活動での環境保全を。

取引先、サプライヤとの
良好な関係づくりを。

Partner
パートナー

People
人

従業員はもちろん、
地域の“人々”に対しても。



世界に通用する 新KOIZUMIブランドを構築し、 社会に貢献できる企業グループを 目指し続けます

消費税導入前の駆け込み需要の影響を受けながらも、 先行投資ができた第三次中期経営計画の最終年度

小泉産業グループでは、利益を出せる企業体質を目指して、2012年度から3カ年にわたる第三次中期経営計画において「新時代に挑戦する」という方針を掲げ、「人材のプロフェッショナル化」「新しい顧客・商品の創造」「成長に向けた戦略的投資」の3つに的を絞り、人事戦略、経営戦略の両輪で、個人と企業の成長と生産性の向上に取り組んできました。

その最終年度にあたる2014年度は、『「Next Stage」への挑戦』を経営方針に、2017年度にグループ売上1,000億円の達成に向けた成長戦略をとってきました。しかしながら、前年度後半に、2014年4月の消費税率引き上げ前の駆け込み需要が予想以上に高まり、その反動で当年度の売上が落ち込んだため、グループ全体としては増収減益となりました。

減益の理由は、2014年度後半に、市場の厳しい競争環境を勝ち抜くため、販促活動を強化したことや、基幹情報システムの再構築、新たな物流拠点の整備などのインフラ投資によるものであり、これらはNext Stage (次の段階)につなげる先行投資として捉えています。

照明事業は住宅・店舗系、海外事業が伸展し、 家具事業は新規販路・お客様の開拓が進みました

事業別に2014年度を総括しますと、照明事業については、ネット・量販店を通じたBtoC事業は市場のLEDが低価格に定着したこともあり伸び悩みましたが、住宅・店舗設備系のBtoB事業では、先行的な商品や「光品質」にこだわり続けてきた姿勢が評価され、前年度を上回る伸びを示しました。店舗設備系では、学校や官庁などの設備改修に伴う案件が増加。関西国際空港のLED化ではコイズミ照明(株)の照明設計提案が全面的に採用されました。また、海外事業も順調に伸び、シンガポールに販売子会社を設立しました。



小泉産業(株)
代表取締役社長
コイズミ照明(株)
代表取締役社長
梅田 照幸



コイズミ物流(株)
代表取締役社長
西原 久人

(株)ホリウチ・
トータルサービス
代表取締役社長
権藤 浩二

コイズミファニテック(株)
代表取締役社長
川上 隆司

(株)ハローリビング
代表取締役社長
石尾 泰裕

一方、家具事業は、100%海外生産という事業構造が円安の影響を受け、売上は約1割ダウンとなりました。しかしながら、2014年に設けた市場開発部を中心に、学習家具のみならず、書斎家具やシニア家具などについても新たな販売ルートやお客様の開拓が進み、今後に向けた進展があった1年でした。

物流事業については、今後10年、15年と通用する物流拠点の構築という視点で、2015年5月に東大阪営業所を大阪営業所として南港へ移転しました。これによって近畿内3拠点が近接したエリアに集約され、物流の効率が格段に向上。コストメリットのほか、社会的な要請が高まってきている労働時間の削減、安全性に対しても十分に対応できる体制が整いました。

また、経営戦略のひとつとして取り組んできた、事業を越えたグループシナジーの発揮については、2013年12月にグループに加わった、ホテル什器の搬入・設置などを行う(株)ホリウチ・トータルサービスとの情報共有により、協業が進んでいます。

小泉産業グループの理念

社 是

人格の育成向上

グループ経営理念

新しい着眼と独自の発想で
新たな価値を創造し
人と社会に夢と感動をつくり出します

グループ行動理念

- 積極果敢にチャレンジし、目標を必達します
- 自由活発なコミュニケーションを行い、明るく、元気に、同志とともに進みます
- 互いに学び、人間力を高めめます
- 現場、現物、現象を基本に、お客様の課題を解決します
- 三方よしの精神で、信用と信頼の向上を図ります
- 社会規範を遵守し、地域、社会、地球環境に貢献します

グループビジョン

私たちは、ゆたかで快適な暮らしを提供する
愛される“価値創造の専門集団”をめざします



30年ぶりにブランドイメージを刷新し、 小泉成器(株)と協調し世界に通用するブランド構築に着手

グループシナジーを考える際、各社が共通に掲げるKOIZUMIというブランドの価値を高めていくことが、当社グループにとって大きな課題です。現在のブランドは29年前のCI導入時に設定されたものであり、それ以降の社会の情報化やグローバル化のもとに世の中は大きく様変わりし、それに合わせてブランドの見直しも必要になってきていました。また、26年前に分離・独立した小泉成器(株)とは同じブランドを共有しながらも、それぞれの道を歩んできました。

そうした中、小泉産業グループと小泉成器(株)は、2015年10月1日から今の時代にマッチする新たなブランドロゴを掲げ、相互に協力して世界に通用するKOIZUMIブランドの構築に取り組んでいくことになりました。2013年6月にグループ各社の選抜メンバーによって発足したブランド推進プロジェクト「One KOIZUMI」では、グループの歴史や各社の現状を分析し、KOIZUMIブランドとは何かを徹底的に話し合いました。その結果、ブランドの強みや提供価値を「__違う発想がある」という一言に凝縮したステートメントと新しいブランドロゴが生まれました。

2016年は創業300周年でもあり、今後、グループ全社に新ブランドの浸透を図りながら、新たなKOIZUMI像を社会に向けて発信していく考えです。



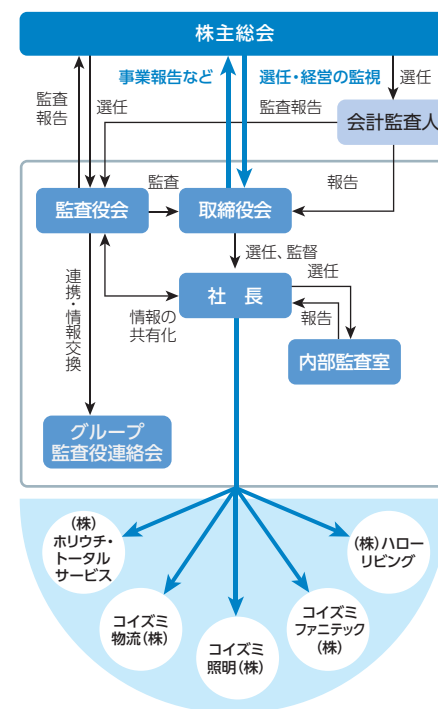
全従業員がプロ意識と市場開発的な発想を持って、 新たなビジネスモデルの創出に挑戦

2015年度からは、第四次中期経営計画(～2017年度)がスタートしました。「ひらめき」「ときめき」を提供し続けることを“約束”に、また、「創造性」「革新性」を体現し続けることを“責任”にした「新ブランド宣言」の実践を重点課題に、初年度は「自ら考え行動するプロ集団へ!」を経営方針に掲げました。

全員がこの“約束”と“責任”を自覚し、プロ意識と新たな市場を開発する視点を持つことを基本に、自分たちの業界だけにとどまらず他の業界の新しい技術や発想も積極的に採り入れることで、新たなビジネスモデルの創出に取り組んでいきたいと考えています。

グローバル展開に対応できる次期リーダーの創出にも引き続き取り組み独自の人材教育プログラム、「コイズミアカデミー」における中堅マネージャーや経営幹部の教育など、各社における次世代教育を継続させていきます。さらに、若い人や女性が活躍できる企業体質を目指し、まず照明事業からマネージャーを志す女性を募るなど、女性の能力活用と活躍推進を本格的に開始する考えです。

■ グループガバナンス体制図



■ 組織変更図



そのためには、「社長と語る会」などを通じて、従業員と身近にコミュニケーションを取りながら、お互いの想いを理解し合うことが大事なことだと思います。



300年継続してきた重み・強みを土台に 「人」を基軸に据えた経営をこの先の未来へ

KOIZUMIのブランドを掲げる我々が発信していかなければならないのは、品質最優先の考え、海外でも通用するような独自性の高い商品、さらには自由闊達な社風です。これらを強みに実力と評判に裏打ちされたブランドを構築することで、ブランドにとって最も重要な「安心感」を国内外の消費者の方々にアピールしていきたいと考えています。

当社グループが、1716年の創業から300年続いてきたことは大きな財産であり、その間、江戸から明治へ、また戦争という日本社会が根底から変わるようなできごとを経て、会社が続いている理由を考えると、小泉産業の社是である「人格の育成向上」、すなわち「人」を中心とした経営にたどりつきます。「三方よし」という近江商人の精神に通じる「相手を想う」という気持ちさえ忘れなければ、企業は継続していくのだということを小泉の歴史が教えてくれています。

今後も従業員一人ひとりが関わるすべての人に感謝をしながら、社会の問題を解決し、社会に貢献していける企業グループであり続けれます。

「社長と語る会」を継続して開催

経営者と従業員のコミュニケーション活動として、2010年度にスタートした「梅田社長と語る会」も5年目の開催となりました。従来通り、社長が従業員一人ひとりの「仕事観」や「人となり」について理解を深めると同時に、従業員には社長の経営や仕事に対する想いや期待、また人柄について直接語り合うことで深く知ってもらうことを目的に行っています。2014年度は小泉産業(株)人事室の運営で、首都圏エリアでの実施も含め4回開催し、グループ4社から24名が参加しました。また、グループ各社でも、独自に経営層とのコミュニケーション企画が実施されています。



グループ各社の中堅メンバーと



コイズミ照明(株)・本社メンバーと



東大阪開発技術センターで

小泉産業株式会社
代表取締役社長

梅田 照幸



■ 新ブランドステートメント

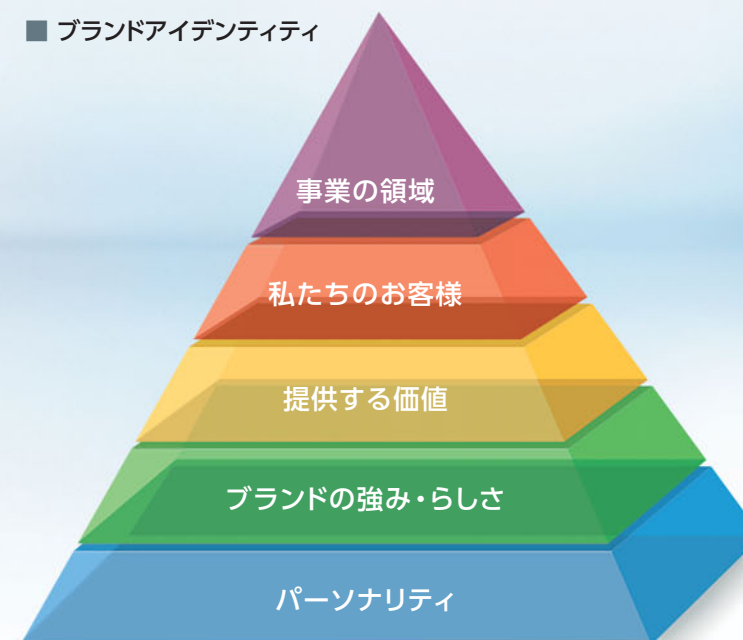
__違う発想がある

思いもよらない発想と革新性で
「あ!これいいナ」と多くの人々の心を動かす
新しい価値を創造し、
暮らしを次のステージへと導きます。

■ 新ブランドロゴ

KOIZUMI

■ ブランドアイデンティティ



私たちはどんな**パーソナリティ**なのか。
私たちの**強み**はどこにあり、
それを活かしてどんな**価値**を生み出し、
どのような**お客様**に届けるのか、
そしてそれをどの**領域**で実践していくのか、
KOIZUMIブランドが未来に向かって
できることを明らかにするため、
アイデンティティ(本質)を見つめ直し、
5つの要素で再構成しました。



特集

__違う発想がある

2015年、KOIZUMIブランドを刷新しました



お客様に共感と
信頼をいただける企業を
目指します



ブランド推進プロジェクト委員長
小泉産業(株) 常務取締役 グループ経営統括部長 榎藤 浩二

社会が大きく変化している時代に、私どもの製品やサービスが
価値観の多様化したさまざまな生活者に通用するのかについて、
2年にわたりブランドの総点検を行いました。お客様に感動ととき
めきをお届けし、共感と信頼をいただける企業を目指して、メッ
セージも新たに、グループとしての取り組みがスタートしました。

常に時代にフィットするKOIZUMIブランドを目指して

2015年、小泉産業グループはKOIZUMIブランドを刷新し、10月
1日より新しいブランドステートメントとブランドロゴの運用を開始
いたしました。

市場のグローバル化と需要の変化は速まるばかりですが、その変
化に適応できているかどうか、企業は常に自らをチェックすることが
必要です。今回のブランド刷新は、同じブランドを掲げながら、それ
ぞれの道を歩んできた小泉成器(株)とともに、2013年6月に立ち
上げたブランド推進プロジェクト「One KOIZUMI」によって推進され
ました。今後、両社はブランドの「共有」から「共創」へ、活動のステージ
を進め、相互に協力しながら実力と評判に裏打ちされた強い企業
ブランドの構築に取り組んでいきます。

ブランド推進プロジェクトでは、両社の選抜メンバーが2年間にわ
たり、KOIZUMIブランドの本質について議論を重ね、そこからブランド
推進の基礎となる4つの要素「ブランドアイデンティティ」「ブランド
ステートメント」「ブランドロゴ」「ブランドカラー」が生まれました。

ブランドの本質を明文化したブランドアイデンティティは、パーソ
ナリティ(人柄)、ブランドの強み・らしさ、提供する価値、私たちの
お客様、事業の領域の5つの項目で定義づけられています。

すなわち、「生活文化創造業」という独自の事業領域で、暮らしへ
の誠実な視点と挑戦心、豊かな発想力によって、枠にとらわれない
創造性と革新性を強みとし、個性豊かな暮らしを求めるお客様に、
「ひらめき・ときめき」を提供する――。プロジェクトにおける対話
と交流の中で明確にされた、これらKOIZUMIブランドの本質を
「__違う発想がある」という一言に凝縮し、ブランドステートメントと
して表明。新しいブランドロゴは、「違う発想(idea)」のIと漢字の
「人」によって「K」の文字をシンボル化するとともに、全体として力強
さとしなやかさを帯びたデザインとしました。

今後、各社の従業員にブランド刷新の主旨の浸透を図る研修を
実施するとともに、グループ一丸となってKOIZUMIブランドの価値
向上を目指します。

全社員一丸となって、
KOIZUMIブランドの価値を
高めていきます



ブランド推進プロジェクト委員長
小泉成器(株) 管理グループ執行役員 部長 田村 泰司

KOIZUMIブランドの“共有”から“共創”に向けて、推進活動が
スタートしました。激しい環境変化に対応しながら、実力のある
KOIZUMIブランドにすべく小泉成器は、全社員が一丸となって
「__違う発想がある」を具体的なカタチに置き換え行動していき
ます。そして、小泉産業グループとのシナジー効果で、KOIZUMI
ブランドの価値を大いに高めていきたいと思っています。

「違う発想」が紡ぐ KOIZUMIブランドの歴史

多くのヒット商品を生んできた枠にとらわれない創造性と革新性を、この先の未来へ

創業のころ、全国行商時代の近江商法「諸国産物廻し」にみる商品と市場の融合化の発想。

三代目小泉重助が主導した「特殊特徴品主義」。

電器、照明、家具開発における複合化の発想。

コイズミは他とは違うこと、新しいことをずっと大切にし、それを実践することで

人々の共感を引き出し、安心と信頼を育んできました。

枠にとらわれない創造性と革新性はいつの世にも多くの感動を届け、

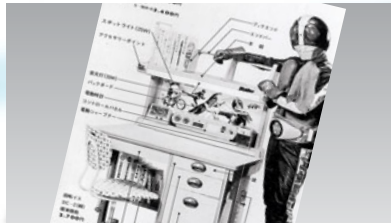
人々の暮らしを次のステージへと導いています。

1716 創業 始祖小泉武助行商開始
1738 近江屋新助商店設立
1871 近代創業 立木屋森之助商店開設(大阪)
1904 社章を▼に制定。「小泉合名会社」設立
1941 株式会社小泉商店設立
1943 大阪で航空機ゲージの加工販売業・
五光精機工業を買収し、
五光精機工業株式会社設立

1946 社名を「小泉産業株式会社」に変更
電気、ガス、石油器具を主とした
製造卸業を開始
1953 東京営業所開設
1957 照明市場へ本格参入
1961 広島営業所、福岡営業所開設
1962 名古屋営業所開設
1967 家具市場へ本格参入

1978 大阪商工会議所から「企業百年」で
表彰を受ける
1981 (株)マテック(現:コイズミ照明デバイス(株))、
(株)ハローリビング設立
1986 CIシステム導入(ヒカリブランドから
コイズミブランドへ転換)
1989 新創業 商事事業部門分離
(小泉成器(株)設立)

1971 照明器具付学習机
ライダーデスク



1966年、めざましい経済発展によって人々の生活にゆとりが生まれ、教育熱が高まりました。これにともなって子ども部屋、勉強机の需要が活発になってきました。コイズミは、自社の照明技術を活かして、業界初の「蛍光灯付学習机・蛍雪」を発売。1971年には蛍光灯・白熱灯の「ライダーデスク」を発表。仮面ライダーのキャラクター人気と合わせ空前の大ヒットとなりました。

年間通じて使える新コタツ
家具調コタツ「四季の集い」



1973年には家具調コタツ「四季の集い」を開発。それまでのコタツの概念から離れ、インテリア性の高い座卓に暖房機能を付加した製品は、年間を通じて使える全く新しいジャンルの家具として一世を風靡しました。

1991 直営照明器具製造工場・
コイズミライティング(株)
設立
1995 コイズミサンギョウ
(タイランド)LTD.設立
1999 コイズミ物流(株)設立

1982 動くあかりのショールーム
ライティング・セオアール



「現物を確かめてから照明を決めたい」そんなお客様の要望に応えるため、コイズミは全国津々浦々まで巡回する改造トレーラー「動くあかりのショールーム」を製作しました。駐車場などの敷地に200坪のショールームが突如現れ、その夜には撤収・移動というシステムは全国のお客様に重宝いただくとともに、コイズミの発想力と機動力を印象づけるものでした。

1987 学生を対象とした世界唯一の照明コンペ
コイズミ国際学生照明デザインコンペ



1987年、若き人材の育成と照明文化の普及を目的に、世界の学生を対象とした照明のデザインコンペを創設。他に類を見ない当コンペはたくさんの方々をいただきました。25年間に世界42カ国、3万人を超える学生に参加いただきました。

2000 中国 東莞事務所開設
2001 照明事業 ISO9001認証取得
大連事務所開設
P.T.コイズミインドネシア設立
ISO14001認証取得
2002 小泉産業(香港)有限公司設立

2006 21世紀の学習家具のトレンド
ステップアップデスク



「机+上棚」から「机+書棚」への発想転換。これによって机と書棚が合体式、分離式どちらでも使えるようになり、お子様の成長に合わせてレイアウトも使い方も自由自在にステップアップできるようになりました。翌年発表された業界の新製品の主流は、ほとんどがこの方式となりました。

2008 世界で初めて製品化に成功
超高演色LED



2008年、環境の時代の最先端の光源であるLEDを搭載した「cledy」シリーズを発表。2009年には、山口大学との共同研究により、平均演色評価数(物の色を自然に見せる度合)97という驚異的な性能を世界に先駆けて開発。「快適な視環境づくり」を目指すコイズミが、LEDの新たなステージを築きました。

2005 家具事業 ISO9001認証取得
2006 照明・家具事業を分社
小泉産業(株)を持株会社と
するグループ経営体制へ移行
克茲米商貿(上海)有限公司
設立
2009 東莞小泉照明有限公司設立

2010 青垣コイズミ照明(株)設立
小泉家具(大連)有限公司
設立
2012 コイズミライティング(株)
LED工場開設
2013 照明提案型スタジオ
「KLOS」グランフロント
大阪に開設
(株)ホリウチ・トータル
サービスがグループ加入
2014 コイズミショウメイ
(シンガポール)設立

2011 光と化学の融合
LED導光板照明



アクリルの端面に光を当て、アクリル面全体を光らせる「エッジライト方式」。この方式は、発光面の均質性や光のロスが課題でした。コイズミは、この課題の解決策で特許を持つ住友化学様とコラボレーション。高効率、均質性に加え、光の柔らかさを備えたLED導光板照明を発売しました。

2013 LED照明提案型スタジオ
KLOS



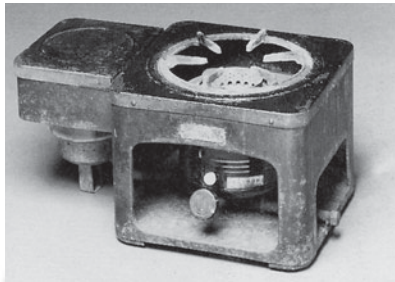
KLOS(コイズミライティング・オペレーションスタジオ)は、LED照明の最適化提案や最新の技術紹介など、お客様との双方向コミュニケーションを通じて課題解決するイノベーションの「場」。外光をブラインドとデザインウォール(カーテン)で制御し、施設内の表情を変えることで施設全体で光のあり方を表現することができます。

2015 どこでも、いつまでも使える新スタイル
STUDY UP DESK



詳細については、P.21～24の特集をご覧ください。

1953 燃料ルートから家電ルートへ
石油コンロ



1953年、石油を燃料とする新しい調理器具、石油コンロを開発。この種の商品は燃料店で販売されていましたが、当社が初めて電気店ルートで販売を開始し、予想を超える大ヒットとなりました。

全国行商の時代



THE RITZ-CARLTON KYOTO 《「伝統・文化」と「モダン」の革新的な融合》 「ザ・リッツ・カールトン京都」照明計画で お客様の求めるイメージを理想的なカタチで表現

2014年2月に開業した「ザ・リッツ・カールトン京都」。
モダンさと京都の伝統・文化を融合させた上質な空間には、コイズミ照明(株)の製作室が参画し、
ライティングプロダクト製作に携わりました。伝統工芸の職人や作家の方々、
そして製造協力工場と共創したモノづくりによって、お客様が求めるイメージを具現化することができました。

ロビーから地下フロアへ続く吹き抜け中央に、角棒で構成されたダイナミックな高さ3mのペンダントを配置しました

京都の風合いを ライティングプロダクトに 活かすため京都工芸職人を 中心にコラボレート

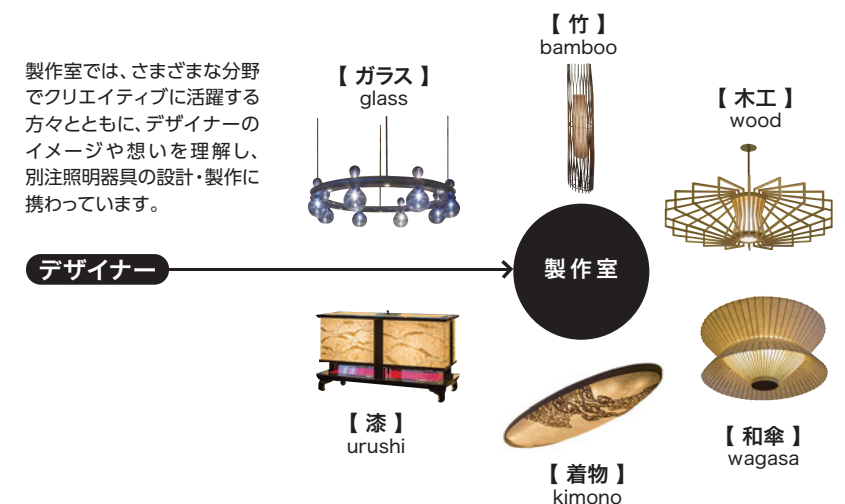
コイズミ照明(株)製作室では、インテリアデザイナーが求めるイメージを具現化するための別注製品の設計・製作と現場管理を行っています。既製品とは違い企画から納品までの期間が短く、室員一人ひとりの仕事範囲は多岐にわたり、製作協力会社様や木工、ガラス細工、伝統工芸など多方面で活躍する方々の協力を得て商品を生み出しています。新しい技術や素材の情報と今まで培った経験を活かし、これまでも日本を代表するホテルや商業施設などの照明器具を手がけてきました。

「ザ・リッツ・カールトン京都」では、ホテルの内装で世界的に著名なインテリアデザイナーがロビーやレストランなどのデザインを監修されました。照明デザインへの具体的な要望は、「京都の職人の技を使って、多くの伝統工芸の風合いをインテリアに採り入れたい」ということ。当社は、デザイナーがイメージするモノを実現するために、営業、店舗・施設の照明空間設計を行うLCR (Lighting Creative Room)、協力工場様と製作室がプロジェクト体制を組み、現場スケジュール、予算対応などの課題の一つひとつ解決していききました。

試作品でイメージ確認を繰り返し、ディテールのこだわりや技術的な課題は、職人の方々も交えてデザイナーと妥協なく話し合い、モノ作りに反映。取り付け施工についても、建築業者様とイメージ通りに納まるよう協議を繰り返すなど十分なコミュニケーションによる協力のもとに進めることができました。

ザ・ロビーラウンジ

明暗のコントラストが美しいラグジュアリーな空間の中央部に配置された、和傘をイメージしたペンダント照明。四隅には竹細工のスタンド照明であたたかな和の趣きを演出しました。



Koizumi's Voice

多くの人の協力を得て、 デザイナーのイメージ通りの照明器具を具現化できました

本案件では、デザインはディテールまで決まっており、京都の職人を使ってほしいという要望も伺っていましたが、デザイナーの思考に肉迫するため、サンプルを出しては反応を見て修正する作業を繰り返しました。各方面のクリエイターや職人、協力工場、社内メンバーなど多くの人の協力のもと、デザイナーのイメージ通りの照明器具を具現化でき、うれしく思っています。また、このご縁を今後の仕事に活かしていきたいと考えています。

コイズミ照明(株)
店舗・施設事業部
製作室 大阪グループ
グループ長 瀬戸 正治(左)
室長 豊田 伸二(左中)
岡田 貢(右中)
穴吹 眞一(右)



デザイナーの発想に忠実に 京の伝統の技を活かした 新しいあかり

インテリアを担当された海外デザイナーは、事前に京都を訪れ、京指物など京都ならではの工芸技術をリサーチし、内装デザインに取り入れたいという要望をお持ちでした。

スペックリストには、京和傘の(株)日吉屋様、キモノデザインの(株)三才様などが指定され、材質や仕上げにも木工、和紙、漆塗りなど和の質感にこだわった指示があり、照明器具もそれらを駆使してデザインされていました。例えば、ロビーラウンジの照明器具は、京和傘を上下に合体した形状で、存在感がありながら京ならではの落ち着きを感じさせ、くつろぎのある空間を演出しています。

和食レストランの天井行燈は、(株)三才様のキモノデザイナー、斉藤上太郎氏とのコラボレーションによるものです。和紙を使ったオーバル型の天井行燈に斉藤氏がデザインしたのは、雲や植物、水などをモチーフにしたヒノキの曲線美。平面ではなく、3次元のアールに繊細な木製のラインを貼りつけるのは、当社にとっても経験のない器具製作手法でした。斉藤氏から組木細工職人の方を紹介いただき、木片をパズルのように組み立てていく技術で、イメージ通りの照明器具を完成させることができました。

現場の内装管理でお世話になった(株)イリア様からは、このように一つひとつのこだわりを国内の技術で器具に反映させた取り組みに高い評価をいただき、新たな創造の機会に向かう自信につながりました。

Stakeholder's Voice

製作検討からともに取り組み、 デザインを具現化できました

照明の木工製作は今回が初めて。コイズミ照明様とは製作検討からともに取り組み、家具で用いる伝統的な木工技術を活用するなどして、難しいデザインを具現化することができました。製作室様には、必要な検証・確認は現場で行うなど、もの作りを遂行する意思を感じました。

人対人の関係を築いていただけたことも力を発揮できた要因です。今後も木工技術で新しい挑戦ができるような仕事に取り組みさせていただきたいと思っています。



KIKKA WORKS 粟田 一行 様

チャペル・待ち合い室
京都らしい格子をイメージした
木製のデザインペンダントが
空間を引き立てます。



Stakeholder's Voice

アート要素のある照明を具現化し、 要望に伝えていただきました

約15年前にコイズミ照明様とパートナー契約させていただいて以来、多くの製品を製作させていただいています。製作室の方々には現場、現物、現象に対し常に行動され、状況の変化にも早く決断いただけるため、生産スピードを維持できています。弊社としても製作範囲を広げるため、品質体制の強化、社外製作会社の基盤作り、中国製作の管理に挑戦しています。今後もともに成長できる良きパートナーとしてコイズミ製品に貢献していきます。



八紘電機株式会社 代表取締役 淡野 敬一 様



地下屋内プール
大きなガラス貼りの開口から自然光を採り入れながら、柱巻きのブラケットとフロアスタンドによる柔らかな光を、空間のアクセントとしています

日本料理店-水曜-
天井行燈に施された木製デザインは一つひとつ異なり、「天、空」から「地、池」へと流れるイメージを雲、植物、水などのモチーフで表現しています

Stakeholder's Voice

アート要素のある照明を 具現化し、要望に伝えていただきました

本案件の照明には、和傘、組子、漆といった伝統技法が数多く採用され、インテリアデザイナーの要望に十分に伝えていただきました。コイズミ照明様とは、これまでもホテル・施設の仕事をさせていただきましたが、今回、照明計画を理解した上でアート要素のあるプロダクトを具現化する印象がもっと強くなりました。また、



株式会社イリア 高野 侑子 様

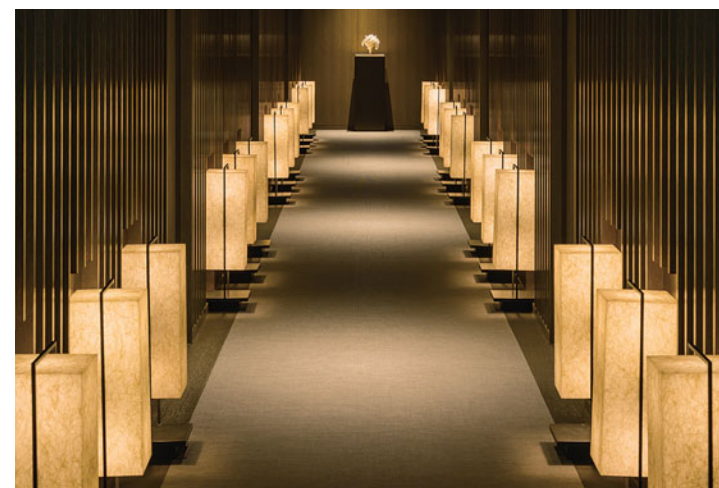
社内のチーム連携ができているところも、コイズミオリジナルだと感じました。



イタリアンレストラン-La Locanda-
純和風建築の低い天井に設置した吹き硝子のペンダントがモダンな雰囲気を演出しました



ザ・バー
天井面に大きな弧を描きながら広がる柔らかな間接照明が、訪れた人の視線をオープンなレストランの内部へ誘導します。また、存在感がありながらも気品を感じさせるスタンドを各テーブルに備えつけることで、光によるプライベート感を演出しました



パッセージ
京都ならではの行燈をモチーフにした、和紙スタンドを連続配置することで、落ち着いた空間を演出するとともに、奥行き感も表現しました

お客様の満足を目指して、 協力者が一丸となって 取り組むモノ作り

製作室が手がける別注器具の製作は、豊富なノウハウと実績を持つ協力工場様にお願いしています。今回のプロジェクトでは八紘電機(株)様にチーム参画していただきました。

素材探しなどの情報収集力があり、設計段階でのデザインレビュー、試作品作製など常に一緒に行動し、製作現場の皆さんにも本件の製作工程、顧客の要望などを適確に伝えていただきました。板金、組み立て、設計、どの工程の社員の方に問い合わせても確実な回答が得られたのは、毎日のミーティングで情報共有されていたからということを伺い、正に一丸となった協力をいただきました。

社内的にも、営業部門担当者、LCR部門のスタッフと製作室が常に情報を共有し、適材適所、臨機応変に対応できた結果、お客様に満足していただける製品作りにつながりました。

本プロジェクトで初めてお仕事させていただいたモノ作りに携わる方々とは、このご縁を大切に、これからもコイズミ照明製作室のパートナーとして器具製作に参画していただく機会を設けていきたいと考えています。

今後も、多方面で活躍されているデザインやモノ作りに関わる方々との関係をさらに広げ、お客様の多様なニーズやイメージをよりの確なカタチにできるように進めていきます。

LEDの新たな可能性を追求し、 人と暮らしをより豊かに快適に

白熱灯や蛍光灯に代わって急速に進化・普及しているLED。

創業以来、「光の質」にこだわり続けているコイズミ照明(株)では、そんな今だからこそ、暮らしを豊かに快適にするあかりとしてLEDの可能性を追求し、照明専門メーカーならではの付加価値の提案に取り組んでいます。

「光・制御・デザイン」の 3つの観点で照明専門 メーカーならではの 付加価値の提案を

コイズミ照明(株)では、2008年にLEDを搭載した住宅照明「cledy」シリーズを発表し、2009年には超高演色LEDを世界に先がけて開発するなど、単に新しい光源ということだけでなく空間を快適にするあかりとしての可能性を拓きました。

その後LED照明は、東日本大震災を契機に省エネ性の高さから一気に需要が高まり、価格の低下と従来光源と遜色ない明るさが実現できるようになってきたことなどから普及が進みました。2014年度には、国内の照明の全出荷台数に占めるLED照明の割合は73%となり、2015年度には80%を超える見込みです。コイズミ照明では既に2014年度のLED出荷比率は80%を超え、2015年度発売品では100%がLED製品となっています。

LEDの明るさや省エネ性が当たり前になった今、私たちが提案できる付加価値とは何か——。自社のスローガンである「あかりのあかり」を改めて見つめ直した結果、コイズミ照明では、LEDの付加価値を「光・制御・デザイン」の観点から追求し、照明器具というハードと空間演出というソフトの両面から快適なあかり空間の実現に取り組んでいます。

特に近年、注力しているのが、LEDの特徴である調光調色を制御できる技術とインテリアのトレンドに合致したデザイン開発です。リビングやダイニング、寝室といった空間シーンに応じて、光をデザインし、暮らしの質を高められる製品を充実させています。

光の色や明るさを きめ細かくコントロールし、 空間やシーンにフィットした お好みのあかりを演出

光を制御する機能として、2014年度から提案しているのが、暮らしのシーンにフィットした光の色や明るさの変更をサポートする「FIT調色」です。赤っぽい色の光にはくつろぎを、青っぽい色の光にはさわやかさを感じるように、光の色は人の心理に影響を及ぼします。また、朝食や勉強には明るい光が適しますが、くつろぎのシーンには不向きです。そこで昨年発表した「FIT調色」では、コントローラーを使って色と明るさを同時に調整でき、2015年度発売品では、色と明るさを最大200×200段階まで組み合わせ、よりきめ細かく調整できるようになりました。

また、ワイドな光と手元を照らす光を1台の器具で両立する「Twin配光」では、簡単に2つの光を楽しめます。例えば、家族だんらんでは明るく広がりのある光を、夫婦2人でくつろぎたいときには器具中央のLEDのみを点灯させ、深い陰影のあるあかりを演出するといった使い方が可能です。

また、最新のメモリーライトコントローラーでは、4回路までの光を制御でき、最大5シーンをメモリーさせることができます。このため、きめ細かく設定した好みの光の組み合わせシーンを、スイッチひとつで簡単に演出することができます。

さらに、こうした光の制御を「もっと簡単に」という声にお応えして、既存の壁スイッチ配線を利用してLEDの調色ができる製品も発売。特別な配線工事は不要のため、簡単にあかりのリフォームをしていただけるようになりました。



Fit調光



Twin配光(ダウンライトの場合)



Koizumi's Voice

デザインや価値創造へのこだわりを具現化しました
製品の企画担当としてターゲット空間の設定と顧客への説明、製品訴求ポイント・価格・構造など製品仕様の設定などに携わっています。コイズミはデザインや価値創造に対するこだわりが他のメーカーに比べ強く、そのこだわりがここ数年で具現化できてきていると感じます。今後も製品価値を高めながら、カタログ表現もさらに工夫し、コイズミブランドを強くしていきたいですね。

コイズミ照明(株)
住宅事業部 商品企画室
藤田 陽彦



住宅メーカー様や 家具メーカー様と協力し、 インテリアとしての トータルな空間美を追求

住宅照明のあかりの役割とは、より豊かで快適な暮らしを提供するためのもの。そこに求められる光は機能や明るさはもちろんのこと、器具のデザインがいかにより住空間にマッチするかというインテリア性も重要な要素です。

そこで、コイズミ照明では、一般のお客様と直接、住空間の打合せをする住宅メーカー様のインテリアコーディネーターに協力をあおぎ、トレンドのインテリアとマッチする製品の開発・販売に数年前から取り組んでいます。当社のデザイナーがデザインした器具にご意見をいただき、製品をブラッシュアップさせることで、よりインテリアとしての意匠性を高めています。

住宅照明カタログ「あかり専科」では、そうして開発した製品を上質なデザインに定評のある家具メーカー様の家具と組み合わせ、照明だけではなくインテリアとしてのトータルな「暮らし」のコーディネート事例を写真を多用してビジュアルに提案しています。

2015年度、コイズミ照明がインテリアのトレンドとしてご提案しているのは「Urban Chic（アーバン シック）」。洗練された上質な空間で、心穏やかに過ごす。都会的でありながら木の温もりを感じられるようなライフスタイルと調和するペンダントライトやスタンドを、リビングやダイニングなどの内装やインテリアと合わせて提案しています。

Koizumi's Voice

空間作りの名脇役であり、司令塔でもあるのが、照明

空間は照明だけでは成り立ちません。生活者、家具、ファブリックなど、空間を創り出すすべての物との調和が必要で、照明は空間をより魅力的に表現する名脇役であり、司令塔だと考えています。家具メーカー様とのコラボは今回のカタログ制作で2年目。コイズミが考える上質な空間として、スタンドを使用した提案は新たな空間価値になったと考えています。今後も、住宅における新価値創造に向け、さまざまな顧客やメーカー様との取り組みを推進します。



コイズミ照明(株)
住宅営業企画室
安枝 直哉



シンプルながらも質感にこだわり、インテリア空間に溶け込む
ペンダント



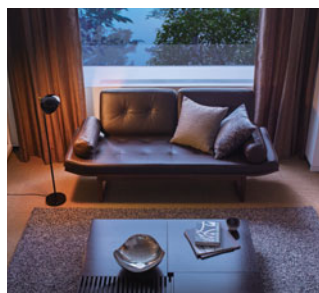
CONDE HOUSE様&Yペンダント／アクセサリを選ぶ感覚でコーディネート

Stakeholder's Voice

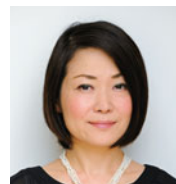
インテリアコーディネーターと ともに照明の開発に携わり、 貴重で楽しい経験ができました

この度は、弊社のインテリアコーディネーターと照明の開発に関わらせていただき、大変貴重で楽しい経験をさせていただきました。私はかねてから、インテリアの大きな要素であり、同じ空間に入る照明と家具が別々に開発・デザインされていることに警鐘を鳴らしてきました。そういう意味で、今回のコイズミ照明さんのカタログは、実にセンセーショナルでインパクトのある、素晴らしいものになったと思います。

都会的でシックな空間を
調光機能で演出



住友林業株式会社
インテリア営業部
調査役
川村 武久 様



住友林業株式会社
住宅事業本部
建築デザイン室
マルイユ 英里 様



間接照明とスタンドで、癒しを感じる
豊かな光空間を演出

Stakeholder's Voice

照明とともに上質で豊かな 暮らしを提案でき、うれしく思っています

住友林業様とコイズミ照明様が住空間の中で家具と調和する照明を開発されると伺い、その想いに共感しカタログ制作に協力させていただきました。空間づくりの重要なアイテムである照明とともに、上質で心地よい暮らしを提案していけることは、家具メーカーとして大変良い機会で、うれしく思っています。今後も機能面・ソフト面の両方で、上質で豊かな暮らしができる照明の開発をぜひ続けてください。



株式会社マルニ木工 広報担当 橋爪 沙織 様

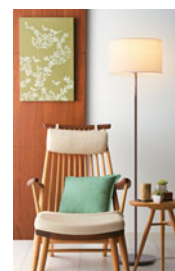


マルニ木工様&半球スタンド／グレー、ベージュ系のインテリアに合わせて

Koizumi's Voice

皆様との共創で、グレードの高い製品が実現できました

一昨年から住友林業様、家具メーカー様のご協力をいただきながら、インテリアからあかりを考える企画に参加し、主にペンダントとスタンドのシリーズのデザイン開発を担当しました。感性豊かな方々とのコミュニケーションを通し、普段では実現が難しいグレードの製品が実現でき、市場での実績評価も良いと聞いています。今後もファブリックなどを加え、インテリアの領域を広げた共創によるコーディネート照明のデザインに挑戦したいと思っています。



あかりを操るベーシックなスタンドライト



間接照明とスタンドライト による照明設計で、 リビング空間の新たな 照明のあり方を提案

上質で洗練された空間を創り出すために追求したもうひとつのスタイルが、今リビングで主流のダウンライトをなくし、スタンドライトと間接照明を組み合わせた照明設計です。

リビングの照明計画は、シャンデリアやシーリングライトが主照明という時代が続きました。その後、空間をすっきりさせる天井埋め込み式のダウンライトがここ十数年は主流となっています。

しかし、LEDは光の直進性が強い光源の特性から、ダウンライトであっても、ソファなどに座って上を見上げるとまぶしく感じる場合があります。より天井をすっきりと見せるためにも、ダウンライトをなくした「ダウンレス空間」が、コイズミ照明が提案する上質なリビングの新たなあり方です。天井壁ぎわからの間接光で柔らかく空間全体を包み、部屋の隅や手元を照らす光は、リモコンを使ってスタンドライトで調整することで、自由自在に変えられるのが特徴です。

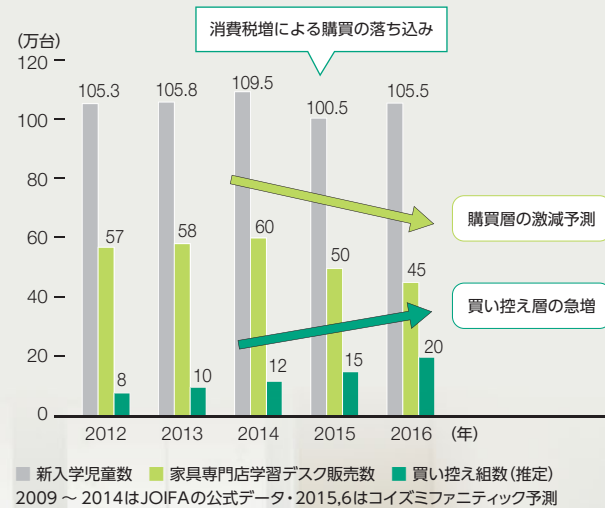
技術革新によって今後もますます高効率・省エネ化が進むと思われるLED。コイズミ照明ではこれらを追求しながら、従来光源にはないLEDの特性を最大限に引き出すことを考え続けています。暮らしの心地よさや快適さを高めていくあかりの可能性を追求し続け、新しい価値として社会に提案していきます。

コイズミ照明(株)
商品開発部 デザイン室
後藤 理恵

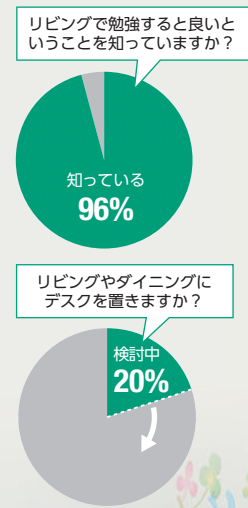
小さいときも大きくなってからも、リビングでも子ども部屋でも、ずっと使える新スタイル「STUDY UP DESK」を開発

1966年に学習デスクを発売して以来、業界に先駆けたスタイルで次々とヒット商品を生み出してきたコイズミファニテック(株)。業界のスタンダードとなった組み換えデスク(ステップアップデスク)の発表から10年。マーケティング発想による新スタイル「STUDY UP DESK(スタディアップデスク)」を開発・発売しました。

■ 学習デスクの市場推移



■ お客様アンケートの結果



“リビング学習派”と“買い控え層”の増加が10年ぶりの新スタイルの開発背景

新しく開発し、2015年夏から発売を開始した2016年型のニューモデル「STUDY UP DESK(スタディアップデスク)」のコンセプトは、「リビング・ダイニングから使い始め、子ども部屋・書斎まで最適なスタイルが選べてずっと使えるデスク」です。「リビングで勉強させたい」という“リビング学習派”の増加や、学習デスクを新入学時に買うことにこだわらない“買い控え層”の増加という、2つの市場動向を分析し、マーケティング発想に基づいて開発しました。

“リビング学習派”増加の背景は、「難関中学の合格者の多くが、小学校低学年に子ども部屋ではなく、ダイニングテーブルやこたつで勉強していた」という調査が発表され、その情報が広まってきたことです。コイズミファニテックのショールームの来場者に実施したアンケート調査でも、この情報を「知っている」という回答が96%に上りました。しかし、実際に学習デスクをリビングやダイニングに置くかどうかでは、「検討中」と答えた方は約20%にとどまりました。「学習デスクをリビングに置くには大きい」「デザインがインテリアと合わない」「子どもが本などを雑に置くと美しくない」などが、その理由でした。

そこで、リビング学習派、買い控え層の方々にもアプローチでき、購入いただける学習デスクとして開発したのが、スタディアップデスクです。

リビングだけでなく将来への子ども部屋移設、さらに大人になっても使える8通りの組み替えが可能

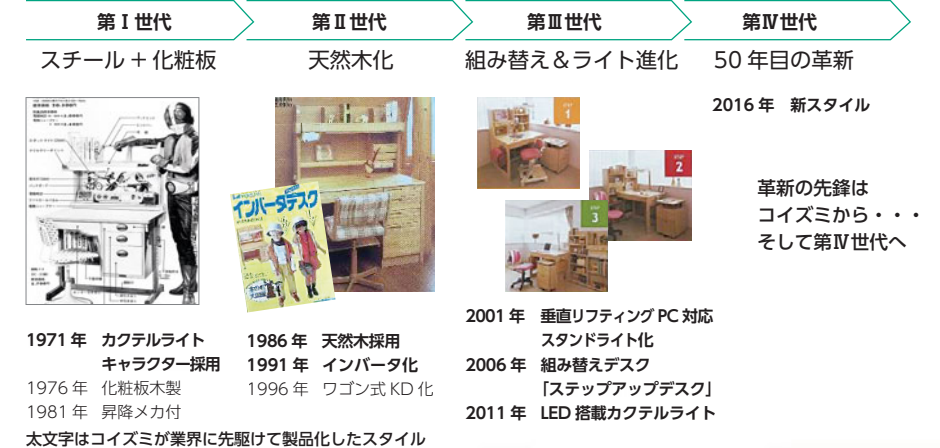
最大の特徴は、リビングではコンパクトに使い、将来、子供部屋などに移設した際は大きく使えるよう、8通りまで組み替えができる点です。組み替えは、従来のステップアップデスクでもできましたが、スタディアップデスクで進化したのは、サイズが可変な点。基本105センチの天板がチェストやシェルフを組み合わせることで、129、147、さらに172センチのスーパーワイドまでの天板サイズを作れます。また、デスク、チェスト、シェルフはそれぞれ単体で使用できるため、リビングでの使用に始まり、独立した子ども部屋や大人になってからの書斎での利用にも対応できるようになっています。

工夫ポイントのひとつは、リビングで学習する際、家族や家庭教師がデスクの横に椅子を置いて教えやすいよう、デスクの脚を内側に付け変えられるようにしたこと。特殊な構造は特許を出願し、取得済みです。また、コンセントには、タブレット学習にも便利なUSB充電機能を搭載しています。

お子様が使う学習家具は、機能やデザインもさることながら、安全性が最重要です。コイズミファニテックでは海外の主力協力工場様にも試験機を導入し、工場と国内検査センターの2カ所で、独自の製品規格「KIS (Koizumi Industrial Standard)」に基づいた強度試験を繰り返し行っています。スタディアップデスクについても試験をクリアすることで、製品の安全性を確保しています。

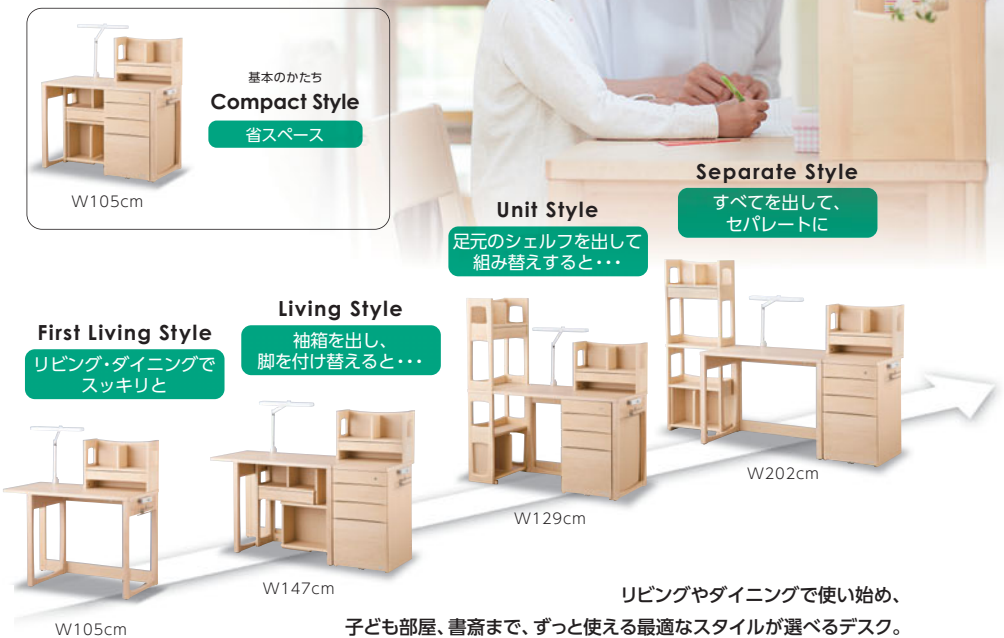
■ 学習デスクのスタイル変化の返還

1966年 学習デスクに蛍光灯搭載に始まり・・・



ほぼ5年サイクルでスタイルが変化、15年間隔で大きな世代変化

どこでも いつまでも STUDY UP DESK



Koizumi's Voice

部署を超えた協力で、商品力の高いデスクが実現

リビングに焦点を当てたSTUDY UP DESKの基本構造を提案し、商品化に携わりました。構造が複雑なため設計は苦労しましたが、課題は品質管理課や開発課の全員で解決策を模索。営業にも意見をもらうなどした結果、当初、提案した構造アイデアからは見違える商品に成長しました。今後も、周囲の人間を巻き込みながら、どんな些細なことでも商品力の向上に活かし、付加価値のある商品を世に送り出していきます。

コイズミファニテック(株)
商品部 開発課
池野 修平



多様なニーズに対応し、
リビングに置いても
インテリアとなじむ
デザインと風合いを実現

スタディアップデスクのもうひとつの特徴は、リビングやダイニングに置いてもインテリアとなじむデザインと質感です。近年、コイズミファニテックでは、お客様の声をもとに、コーディネート性やインテリア性を重視した製品開発に力を入れ、個性を持たせた製品ラインナップを充実させることで、多様化するお客様のニーズに応えてきました。スタディアップデスクについても、カジュアルからトレンド性のあるデザインまで、従来からラインアップしている主力6シリーズすべてで製品をラインナップ。

リビングやダイニングに置くことを考慮すれば、椅子もインテリアになじむものでなければなりません。スタディアップデスクの開発に合わせて、コイズミファニテックでは、ダイニング家具のデザインを行っている外部デザイナーに椅子のデザインを依頼。従来の学習椅子とは一線を画す上質なデザインでありながら、お子様にも使っていただきやすいハイデザインな椅子も発売しました。

また、デスクに搭載したLEDライトは、シンプルなデザインと壁面に干渉せず傷つけない構造に。そのほか、デスクカーペットなど、周辺アイテムも充実させました。



2016年版
コイズミ学習机
カタログ

どこでも いつまでも
STUDY UP DESK



ビーチ材の質感を活かした
シンプルなデザインです。



デスク側板は、アーチ形状
の美しいデザインに仕上げ
ました。



使用シーンに合わせ、ワン
タッチで色が選べるLED
ライト付きです。



タブレットなどの充電に便
利なUSBポート搭載のコン
セント付きです。



Stakeholder's Voice

今後も理想の学習環境創りを
サポートしていく考えです

STUDY UP DESKの共同企画開発では、コイズミファニテックさんの「これからの学習デスクのあるべき姿＜新しいスタイルの学習デスク＞」という草案と、私が提唱する「考える力とコミュニケーション力のある頭のよい子を育てる環境創り＜学習環境とデスクのあり方＞」に共通点があったため、スムーズに製品化できました。今後もよりよい学習環境の提案を通じ、子どもたちを応援する企業であり続けてほしいと願っています。

子どもたちに必要な学習環境の普及と
新しい住まいのあり方の提案に努める。

四十万未来研究所
代表 **四十万 靖 様**
著書「頭のよい子が育つ家」
「頭のよい子が育つ本棚」など



Stakeholder's Voice

コイズミファニテックの強みを
理解し、協力工場の使命を果たしたい

協力工場として15年のお付き合いを通じて、新しい構造やデザインに積極的に取り組む姿勢がコイズミファニテックさんの特徴・強みだと感じています。こうした強みを理解したうえで、安定した品質と確実な納期を実現することが、私たちの使命であり、責任です。今後もたゆまぬ改善に取り組み、御社と共創共栄していくことで、当社の目標である「100年企業」の実現につなげていきたいと考えています。



バンダーウェイ

大連日新公明有限公司 総経理 **龐 大維 様**



引き出しは、奥まで出し入れしやすい全
段フルオープン。文房具の整理に便利
な仕切りとペントレー付きです。

Koizumi's Voice

リビングでもコーディネートできるインテリア性の高い学習椅子を開発しました

リビングでもコーディネートできるインテリア性の高い学習家具を目指し、biscチェアを開発しました。設計ではミリ単位の調整を行い、椅子のバランスにもこだわること、従来の学習椅子より大人っぽいデザインになっています。デザインだけでなく、生活者目線のモノ作りがコイズミらしさ。私自身、今後も消費者目線を忘れず、大人になっても愛着を持って使ってもらえるような商品や新しい生活提案につながる商品を開発していきたいと思っています。



コイズミファニテック(株)
商品部 開発課
高橋 恵理香





学習家具の開発ノウハウと発想を活かし、 機能性に暮らし方の要素を加えた シニア家具・書斎家具で新市場の開拓に挑戦

コイズミファニテック(株)では、学習家具で培ってきた開発のノウハウや発想を盛り込んだシニア家具・書斎家具の開発を本格化させています。また、モノづくり力を強化させ、新たな販売ルートや市場の開拓に積極的に取り組んでいます。



業界初、左右付け替え 可能な引き出しを備え、 デザインと機能性を融合した 電動ベッドを開発

コイズミファニテック(株)では、2014年に学習家具とシニア家具の商品開発部門を統合。50年近くにわたり培ってきた学習家具の開発や品質保証のノウハウを活かし、シニア家具においても、「お客様目線に立った付加価値と、コイズミならではの独自性を持つ製品」の開発に本格的に取り組み始めました。

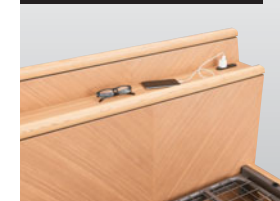
コイズミが得意な独自性とは、例えば、1973年に発売して一世を風靡した家具調コタツに代表されるように、機能性に暮らし方といったソフト面からのアプローチをプラスした発想です。こうした発想から開発したのが、2015年1月にシニア家具コレクション「ACTIVE SENIOR STYLE (アクティブシニアスタイル)」の第一弾として発表した、デザイン性と機能性を融合した電動ベッドシリーズです。従来から介護用品市場向けに開発・販売していた電動ベッドに、家庭での使用という発想を加え、まだ介護は必要ではないが、「ちょっと起き上がりが辛い」といったアクティブかつ、見た目のデザインも重視するシニアを念頭に、家具販売店様向けの商品として開発したものです。

ベッドのパネルやフレームは居室に置いても違和感のない天然木を使用し、3つのデザインにそれぞれ2色のカラー、2種類のモーター、引き出しの有無など、お好みで選べるのが特徴です。機能性も重視し、モーターの位置を工夫することで、電動ベッドでは業界初となる左右付け替えられる引き出し(特許出願中)付きのタイプも開発。お使いいただく方のニーズに応じ、サイドレールを取り付けたタイプもお選びいただけます。



Smart Point [スマートポイント]

コンセント付きヘッドボード



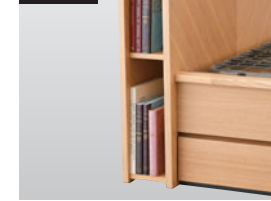
1500W2口スライドカバー付きコンセントと便利な棚付きヘッドボード。(有効棚奥行12cm)

引き出し左右付け替え



引き出しは左右どちらでも付け替えられます。

収納棚



側面にも便利な収納棚付き。A4サイズまで収納可能。

フルオープン引き出し



奥に入れたものも取り出しやすいフルオープン引き出し。(引き出し耐荷重10kg)

フリーホイール



本体構造部と駆動部が連結されていないので身体の一部や物が挟まっても安全な構造。

コード通し穴



すっきり配線できるモーター電源コード用のコード通し穴。

Koizumi's Voice

元気なシニア世代を意識した製品を企画しました

65歳以上のうち介護認定者の割合は20%と、実は元気な方が大半。そんな元気なシニア世代に使っていただくために、機械的な従来の電動ベッドのイメージを一新したのが、「GENTLY SLEEP」シリーズです。上質なデザインと多彩なアイテムを組み合わせ、ニーズに応じて使っていただける電動ベッドです。今後は、電動ベッドの必要性を感じていなかった方にも、その良さを理解いただける製品を企画していきたいですね。

コイズミファニテック(株)
商品部 商品課
井上 善夫



**性別や年齢を問わない
書斎家具などの製品を充実
品質管理体制の見直しも推進**

近年、力を入れてきた書斎家具「HOME STATION(ホームステーション)」シリーズにも、学習家具で培ってきた考え方を盛り込んだ新製品が加わりました。

これまでは、高級感を打ち出した男性向けの「WIZE(ワイズ)」 「WIZE NEX(ワイズネックス)」と、女性向けにナチュラルな北欧スタイルの「Liten(リトゥン)」という2シリーズを展開していましたが、新たに加わった「Lifaldo(リファルド)」は、人気の天然アルダー材を使い、性別や年齢を問わず、長く使っていただきやすい質感やデザインを重視しています。

学習家具の組み替えデスク(ステップアップデスク)の発想から、デスクとシェルフをL字型に組める機能性を踏襲。デスクはコンパクトな80センチ幅から、通常、オプションが多い130センチ幅も標準ラインナップし、多様なニーズにお応えしています。

こうしたシニア家具や書斎家具の製品の充実に伴って、コイズミファニテックでは、製造工場や品質規格などの見直しを進めています。独自の製品規格「KIS(Koizumi Industrial Standard)」に基づく、企画から設計・開発、量産、販売、さらにはアフターサービスまで含めた学習家具の品質管理体制を、シニア・書斎家具についても水平展開すべく、細かな規格の設定を見直している最中です。



書斎家具カタログ

Koizumi's Voice

コイズミの強みを活かし、書斎家具でも業界NO.1を目標に

「Lifaldo」は、トレンドのアルダー材をメインに、アクセントにマホガニー材を使用したシンプル&ナチュラルテイストにこだわった書斎家具。学習機メーカーとして培ったノウハウとコーディネート提案力というコイズミの強みを活かし、周辺家具、チェアなどのトータルコーディネートが可能になっています。お客様様の評価は上々で、書斎家具の売上の柱になると確信しています。書斎家具でも業界No.1メーカーとなるべく、すでに次の企画もスタートしています。



コイズミファニテック(株)
商品部 商品課
芳野 直樹

Lifaldo
Life Fit Alder Home Office



Stakeholder's Voice

**当社店頭の重要商品と
位置付けて販売を拡大させています**

コイズミファニテックのシニア・書斎家具は、店頭・催事での重要商品と位置付け、販売拡大に取り組んでいます。デザイン性と機能性を融合した電動ベッド「GENTLY SLEEP」シリーズは、他にはない特徴から販売実績は好調です。また、書斎家具「Lifaldo」は充実したラインナップで、今後に期待できそうです。これからもお客様のニーズに応えるデザイン・価格と品質の安定した商品開発に期待しています。



株式会社服部家具センター 常務取締役 **服部 松吉 様**



Koizumi's Voice

**培ってきた技術力を、コイズミブランドの
商品作りに活かしていきます**

日本の家具市場向けに28年にわたって製造技術、品質を培ってきたことが、私たちの工場の最大の強みです。今後はコイズミグループの製造工場としてこれまでに培ってきた技術力を活かし、タイ国内だけでなくヨーロッパ、北米の良質な材料も使用し、コイズミブランドの商品として、これまでよりワンランク上の商品を作れるよう、新たな試みにも日々チャレンジしていきます。



ショウエイファニチャー LTD.
大下 裕史

Harmonic Dining



Koizumi's Voice

シニア・書斎家具でもコイズミの名に恥じない品質を!

シニア家具は金属や樹脂がよく使われ、特に鉄は防錆性や溶接精度など、学習家具の木工とは違う技術が要求され、品質要求をクリアするため、日々奮闘しています。当社はシニア・書斎家具市場ではまだ挑戦者の立場ですが、「お客様に喜んでいただきたい」という気持ちは他メーカーに負けていません。何を作ってもコイズミの名に恥じない、信頼される品質を持った製品をこれからも世に送り出し続けていきたいと思っています。



コイズミファニテック(株)
品質管理室 室長
上本 正人

**12年ぶりにダイニング家具の
製造を自社工場で再開
モノ作り力を強化し、
新しい市場を積極的に開拓**

2014年に市場開発部を新設して以来、新しい販促ルートやお客様の開拓にも積極的に取り組んでいます。従来の家具・介護ルートに加え、コントラクト市場(オフィス家具の別注開発)、ネット販売のほか、介護施設向けのオフィス家具などを展開している文具メーカー、インテリアショップなど、従来は接点がなかった企業様とのコラボレーションによる共同開発品も増えてきています。

こうした新たな市場のニーズにも幅広く応えていくためには、メーカーとしてのモノ作り力の強化が欠かせないという考えから、コイズミファニテックでは2015年7月に、タイにある大手住宅メーカー系の家具製造子会社(ショウエイファニチャー LTD.)の株式譲渡を受け、自社の家具工場の運営を始めました。手始めに、一度撤退していたダイニング家具の製造を同工場 で12年ぶりに再開し、2015年8月より販売しています。

工場を持たないファブレスメーカーから、言わば“モノづくり宣言”とも言える自社工場の運営。これを契機にコイズミファニテックでは、コスト削減の取り組み、素材開発などにおいて従来以上に深い成長を目指します。そして、家具・介護ルートのお客様はもちろん、新しい市場のお客様からの「コイズミならこんな商品もあるはず、こんなこともできるはず」という期待に応えていきたいと考えています。

東大阪営業所を大阪営業所に移転し 近接したエリアに集約したことで 物流効率化とコスト削減を実現

グループの物流機能を担っているコイズミ物流(株)の東大阪営業所が、2015年5月に大阪営業所(南港)に移転し、運営を開始しました。近畿エリアの3拠点が近接したエリアに集約されたことで、物流の効率化とコスト削減、さらには労務時間の短縮など、さまざまなメリットが生まれています。



コイズミ物流(株)
経営管理本部 大阪営業所
所長 三宅 文男

Koizumi's Voice

荷主様のメリットを高める運用を追求します

トラック運転手の不足傾向が続き、労務管理面の厳正化が求められる中、大阪営業所では移転前には対応できなかった時間帯で協力会社様への引き渡しが可能になりました。全国物流を担う3拠点が近接したことによる輸送効率、生産性向上の効果をさらに引き出し、グループ内外の荷主様にメリットを感じていただけるサービス提案が行えるよう運用を高めています。

コイズミ物流株式会社 大阪営業所
〒559-0031
大阪市住之江区南港東8丁目4番47号
プロロジスパーク大阪
【交通アクセス】
自動車／阪神高速湾岸4号線
南港北ICより北西へ約700m
電車／南港ニュートラム
ポートタウン東駅 徒歩3分



南港営業所
〒559-0033
大阪市住之江区南港中1-3-98

津守営業所
〒557-0063
大阪市西成区南津守2-1-30

OSAKA

移送時間の短縮化と
それに伴うコスト削減、
さらに出荷時間の短縮など、
多くのメリットが誕生

大阪営業所は、大阪市の南港にあり、広さは全体で約6,000坪。事務所とコイズミ物流(株)が使用する保管スペース、コイズミ照明の商品保管スペースが、平面フロアに並んでいます。移転の大きな背景は、東大阪営業所が開設から40年以上経ち、老朽化が進んでいたことです。最大のメリットは、照明(コイズミ照明(株))・家具(コイズミファニテック(株))・家電(小泉成器(株))の共同配送を行っている近畿3拠点間の距離が格段に近くなったことです。

今までは、東大阪営業所だけが津守営業所や南港営業所から20km以上離れていたため、商品を積み込んだ後、東大阪への移送が日々発生していました。特に夕方の車が混み合う時間帯は移送に1時間以上かかる場合もありましたが、3営業所間の移送時間が大幅に短縮され、高速代やガソリン代などのコスト削減にもつながっています。また、高速道路の出入り口もすぐ近くにあるため、その点でも効率的な物流が実現しています。

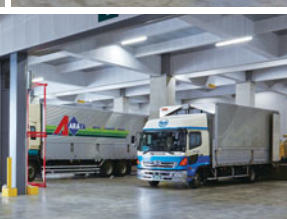
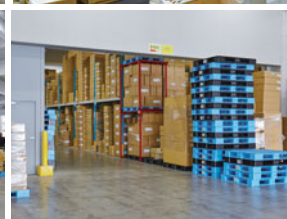
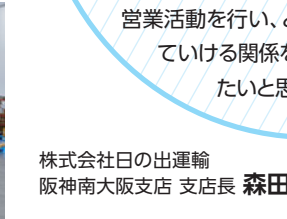
また、立体式の倉庫だった東大阪では2階から1階に荷物を流すためにオムニリフターを使用していましたが、庫内搬送に時間がかかり、予期せぬ故障で作業がストップすることもありました。しかし、大阪営業所ではすべての作業が平面になり、庫内からピッキングしてきた商品をすぐ目の前から出荷できる動線の良さから、出荷作業についても1時間ほどの短縮化が図れています。

協力会社様の労務時間
短縮にも貢献
今後は24時間稼働に移行し、
外販拡大に注力

こうした移送や出庫作業に掛かる時間の短縮化は、コスト削減につながるだけでなく、自社および庫内作業や運送を委託している協力会社の従業員の方々の労務時間の短縮化にもつながっています。労務時間に関する法規制が厳しくなっている中で、大阪営業所の移転によって、大手運送会社様を中心とした労務時間短縮化への要請にも応えられる体制が整いました。

コイズミ物流では、グループ会社の物流のみならず、照明・家具・家電の流通チャネルを中心としたグループ外企業様の輸配送業務や保管業務を受託しています。外部の荷主様に対しても大阪営業所への移転は、グループ内物流と同様の効率化やコスト削減の提案が可能になります。外部の荷主様向けの保管スペースも確保できるため、今後は、物流業務をトータルに受託運営する「サード・パーティ・ロジスティクス(3PL)」の提案にも、さらに力を入れていきます。

また、現在は、昼間のみの稼働ですが、将来的には埼玉県の新部営業所同様に24時間稼働に移行する計画です。関東方面など遠方からの荷物を夜間に受け入れ、翌朝近畿エリアに配達できる体制を軌道に乗せることで、グループ内外の物流に対し、さらにメリットが提案できる拠点を目指します。



株式会社日の出運輸
阪神南大阪支店 支店長 森田 弘 様

Stakeholder's Voice

営業所間の移動が楽になり、 新たな展開を考えていけるように

大阪営業所の竣工おめでとうございます。当社はコイズミ物流様から中国地区の配送と大阪営業所様の検品・物流加工の作業を担当させていただいていますが、各営業所間の距離が近くなったことで営業所間移動が楽になり、将来の新たな展開も考えていけそうだと感じています。大阪営業所がさらに発展してくよう、当社も協力会社グループの一員として営業活動を行い、ともに発展していける関係を築いていきたいと思っています。

Koizumi's Voice

海外戦略の中で、港に近い立地を活かした活動に期待しています

コイズミ物流は物流品質を高める独自のノウハウを持ち、当社の約18,000アイテムの照明器具について、各事業特性に合わせた保管や輸送をしていただいています。西日本では大阪営業所への移転・拡大によって、海外から輸送されてくる商品・部品のコンテナへの対応がスムーズになりました。海外戦略の中で、港に近い立地を活かした活動に期待しています。また、グループで物流機能を持つ強みを活かし、多くのメリットが共有できればと思っています。

コイズミ照明(株)
生産管理部 部長
佐久間 晋



豊富な施工実績とグループネットワークを活かし、 ストック物件のLED改修による省エネ化を積極的に推進

照明器具や空調機器をはじめとした住宅設備機器を販売・施工している(株)ハローリビング。近年は、既存のオフィスや店舗、倉庫などのオーナー様からの「LED照明への入れ替えによって省エネを図りたい」という要望に対し、これまで培ってきた施工経験やグループのネットワークを活かし、積極的に取り組んでいます。

きめ細かいコンサルティング
によってお客様の要望を
実現し、照明環境につながる
最適なプランを提案

LED照明への交換は器具を取り換えるだけでなく、お客様の施設の用途、既設の条件などによって提案内容は多岐にわたります。事前の現場調査では、コンサルティングさせていただきながら、お客様の施設環境の状況に適した照度、色温度、配光、人の動線や作業の内容、電源や配線経路の確保などを確認。お客様の要望を実現し、照明環境の改善にもつながる最適なLED照明を選択し、プランに反映しています。

LED照明への改修を希望される理由は、消費電力の削減による省エネ化や環境対策とともに、電気料金の値上げ対策を考慮されてのケースが増えてきています。改修コストの回収についても納得いただけるプランを提案できるよう、コイズミ照明(株)との連携を図っています。

Koizumi's Voice

顧客満足度向上のため、グループ連携をより強固に
NTTロジスコ様の倉庫LED化では、コイズミ照明・市場開発部の応援も得ましたが、建設当時と様子も変わり、現地調査の大切さを痛感しました。また、工事後に訪問した際は、現場の方々から「明るくなって目も楽になり、作業性も上がりました」との言葉をいただき、照明の大切さを感じました。今後もグループ連携を推進し、顧客満足度を上げていきたいと思っています。

(株)ハローリビング 東日本営業部 部長 川村 康範



こうしたストック物件の省エネ改修は、グループ企業のお客様からの相談がきっかけになることも多く、2015年には、コイズミ物流(株)からの紹介で、(株)NTTロジスコ様の千葉物流センタのLED化工事を一部お任せいただきました。物流加工に必要な照度を確保し、快適な作業環境と経済性を両立する提案が受け入れられ、実現した案件です。今後も、ハローリビングでは一つひとつのご相談情報を大切に、新しいお客様にも満足していただけるような省エネ改修の提案に取り組んでいきたいと考えています。



Stakeholder's Voice

スムーズに工事をしていただき、
倉庫内の照度が改善しました

築13年を経た千葉物流センタでは、倉庫内照明の安定器故障が頻発して照度が落ち、庫内作業に支障をきたしていたことから、LED化を検討。ハローリビング様には、庫内照度(300ルクス)の確保と、土日で約150台の照明のLED化工事をお願いしました。スムーズに工事をしていただき、計画通りの日数で工事が完了。作業員からも、以前の蛍光灯よりも照度が上がったと好評です。



株式会社エヌ・ティ・ティ・ロジスコ
業務部プラットフォーム部門 主査 武田 直人 様

FFEセットアップサービス事業で 多様な空間の付加価値づくりをサポート

2014年、ホテル什器などの納品・据え付け事業を行う、(株)ホリウチ・トータルサービスが小泉産業グループに加わりました。設立以来、12年間にわたって蓄積してきたノウハウをもとに、当社グループが目指す付加価値のある空間づくりをサポートしています。

培ったノウハウで物流の
枠組みを越えた
サービスを構築

(株)ホリウチ・トータルサービスは、2003年の設立以来、12年にわたって、家具(Furniture)・什器(Fixtures)・設備備品類(Equipment)を納品・据付するFFE事業を展開。現在、全国18拠点で、ホテル、百貨店、学校などの施設から住居に至るまで、物流の枠組みを越えた付加価値提供を最大の特徴にトータルなセットアップサービスを構築しています。

日々の作業で目指しているのは、異なるニーズを持つお客様それぞれに必ず満足を感じていただけるサービスの提供です。限られた時間に正確かつ効率的な作業を行うために欠かさない事前の打合わせや調査。また、作業エリアの養生や設置調整の精度。これらを大切に、モノにも人にも安全にスムーズに作業を完遂することとを、常に心がけています。



お客様とのコミュニケーションを大切にしていることも、当社のノウハウのひとつ。2015年には、お取引先様の(株)三越伊勢丹プロパティ・デザイン様の安全衛生協力会において従業員の鈴木守が応募した安全標語「日々確認 慣れと過信は 事故のもと」が最優秀作品賞を受賞しました。作品はポスター製作され、各協力会社、作業現場に掲示活用されています。

今後も、さまざまな業界から評価を受けるFFE事業のプロ集団として、小泉産業グループが目指す付加価値のある空間づくりをサポートすべく、新たなノウハウを蓄積していきたいと考えています。



三越伊勢丹プロパティ・デザイン様安全衛生協力会「受賞式」と表彰状



最優秀賞を受賞し、製作されたポスター



Koizumi's Voice

最高の商品を、最高の品質と安全なシステムで

当社は、ホテルや商業施設の請負物件を中心に、さまざまな商品をエンドユーザー様のもとに安全に納めてきました。現地の諸条件の変化に合わせて、限られたコスト・期限の中、お客様のニーズに精一杯お応えできるよう努めています。今回、(株)三越伊勢丹プロパティ・デザイン様の安全衛生協力会安全標語の募集に際し、最優秀作品として選出いただきました。今後も、最高の商品を最高の品質で安全に納品できるシステムを確立していきます。

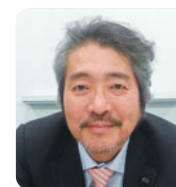
(株)ホリウチ・トータルサービス
東京営業部 営業課 課長
鈴木 守



Stakeholder's Voice

お客様のため、定評ある
現場対応力にさらに期待します

現場ではさまざまな理由で思った通りに運ばないことがあります。そのような時のホリウチさんの対応は長年のお付き合いの中で信頼がおけるものと感じています。また、取付けた後の安全性への意識や、瑕疵が発生しないように配慮した仕事についても他社ではできない内容と評価しています。昨年からお任せするホテル物件も増えつつありますが、これからも一歩進んで弊社の管理者と同じ目線に立っていただき、一緒にお客様への安全配慮に取り組んでいきたいと考えます。



株式会社三越伊勢丹
プロパティ・デザイン
取締役 環境創造事業部長
兼 環境創造事業部建築部長
手塚 鉄治 様

児童養護施設で暮らす子どもたちに、学習デスクの寄贈を続けています

小泉産業(株)では、当社グループの事業特性を活かした社会貢献活動として、児童養護施設で暮らす子どもたちへの学習デスクの寄贈活動を継続しています。4回目を迎えた2014年度は、北陸・中部5県で活動を展開しました。



4回目の2014年度は、北陸・中部5県19施設にデスクと椅子のセットを寄贈

この活動は、東日本大震災の被災地の復興支援のひとつとして、東北3県の児童養護施設に、コイズミファニテック(株)の学習デスクを寄贈したことをきっかけに始まったものです。

1回目の活動を通じて、全国に約600カ所の児童養護施設で約3万人の子どもたちが、家庭の事情などによって親と離れて暮らしていることを知り、活動を子どもたちに希望の風をおくり、夢を育むために継続させていくことになりました。

2回目は、小泉産業(株)の本社所在地のある大阪府で、3回目は九州・沖縄8県で実施。4回目となった2014年度は、中部児童養護施設協議会の協力を得て、北陸・中部の5県(石川・福井・岐阜・三重・愛知)の19施設に計50台のデスクと椅子のセットを寄贈し、組み立てを行いました。寄贈に先立ち、2014年12月、地区各施設の職員さんが集まる研修会において、活動の主旨を説明する機会をいただき、感謝状を受け取りました。

従業員と子どもたちによるデスクの組み立て——顔の見える活動が評価

2013年度からは、小泉産業だけでなく、グループ全体の活動として展開しています。今回も、小泉産業のCSRグループの従業員2名の他に、中部エリアのコイズミファニテック(株)とコイズミ照明(株)の営業社員が計24名参加し、春休み期間中に各施設に出向いて、子どもたちと一緒にデスクの組み立てを行いました。

活動に対して、中部児童養護施設協議会からは「日の当たらないところに目を向けてもらい、驚きと有難さを感じている」、また、寄贈先の施設からは「いろんな企業から寄付をいただくが、こうして社員の方と子どもたちが一緒に作業をする活動は他にはない。顔が見えるので、子どもたちにも感謝する相手がわかりやすい」という声をいただき、触れ合いの大切さを改めて知りました。また、社員からは「参加してよかった」「またいつでも参加したい」という声が寄せられています。

小泉産業では、「子どもたちの夢と将来を育む」ことを目的にした本活動を、今後も全社的な社会貢献活動として継続していきます。



子どもたちからのお礼状

Stakeholder's Voice

中部地区の児童養護施設に学習机をご寄贈いただき誠にありがとうございました。貴社のご寄贈に対し感謝の意を表したく、2014年12月に名古屋で開催しました中部ブロック児童養護施設指導職員研修会の折には、貴社常務取締役様、総務室CSRグループご担当者様にご足労をおかけし、約200名の施設職員が見守る中で貴社代表取締役社長様への感謝状を贈呈させていただきました。学習機の寄贈は、施設で暮らす子どもたちの学習環境の改善につながり、多くの子どもたちが困難な境遇から自立へ向けて旅立つための大きな礎となりました。



全国児童養護施設協議会
中部ブロック協議会
会長 太田 一平 様

Stakeholder's Voice

一般的に学習机と言えば、親御さんや祖父母がさまざまな願いを込め準備することが多いかと思いますが、児童養護施設の子どもにとっては、先輩からのおさがりだったり共有のものだったり…。それが今年は貴社のおかげで新小学一年生一人ひとりに真新しい学習机を整えることができました。「この机は僕の机」と誇らしそうな子どもの表情に触れ、大変感謝しております。貴社の「子どもたちの夢と将来を育む」という願いとともに、机の上や引き出しの中が子どもの思い出で埋まっていくことを楽しみにさせていただきます。



社会福祉法人
和進奉仕会
和進館児童ホーム
ホーム長
長谷川 晃久 様

Koizumi's Voice

今回の施設訪問で、さまざまな理由から施設で暮らす子どもたちが想像以上に多いことを認識しました。学習機の組み立て作業では、はじめは遠慮がちだった子どもたちの表情がだんだん和らぎ、完成した机の前に子どもたちが座ったときの笑顔が忘れられません。社会に貢献できる活動を体験したことを誇りに感じています。今後も、子どもたちへの学習環境の向上を応援するこの活動の継続を望みます。



コイズミファニテック(株) 中部営業部 所長 小泉 実

Koizumi's Voice

伺った2つの施設では、いずれも作業中の子どもたちの人なつこい笑顔、仲間と一生懸命に組み立てる様子が印象的でした。諸事情で家族と一緒に暮らせない子どもたちの明るく元気な姿に感銘を受けました。後日、お礼のお手紙をいただき、さらに感激しました。学習デスク寄贈が子どもたちの成長に少しでも役立つことを願い、当社グループの社会貢献活動として継続されることを期待しています。



コイズミ照明(株)
北陸営業所
北陸営業グループ
統括所長 赤松 長太郎

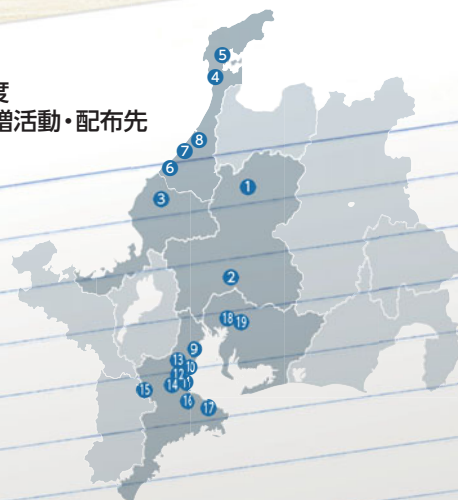
Koizumi's Voice

施設を訪問し、子どもたちと一緒に学習机を組み立てました。真剣に作業をする子どもたちの姿が実に印象的で、業務に追われ余裕のない私にとって有意義な1日となりました。施設長さんの話では、企業から商品の寄贈はあっても、社員が来て子どもたちと組み立てまでしたのは初めてとのこと。大変感謝していただき、この活動の意義を深く実感しました。貴重な体験ができたことを感謝しています。



コイズミ照明(株)
三重営業所
所長 樋口 伸弘

2014年度 デスク寄贈活動・配布先



【岐阜県】

- ① 夕陽ヶ丘
- ② 樹心寮

【福井県】

- ③ ふれ愛園

【石川県】

- ④ しお子どもの家
- ⑤ あすなろ学園
- ⑥ 伊奈美園
- ⑦ 育松園
- ⑧ 梅光児童園

【三重県】

- ⑨ エスペランス四日市
- ⑩ 里山学院
- ⑪ みどり自由学園
- ⑫ 真盛学園
- ⑬ 聖マッテヤ子供の家
- ⑭ 津市たるみ児童福祉会館
- ⑮ 名張養護学園
- ⑯ 聖の家
- ⑰ 天理教三重互助園

【愛知県】

- ⑱ 和進館児童ホーム
- ⑲ 名広愛児園

社会から必要とされる人材創出のために 今、インターンシップに求められているものは？

小泉産業(株)では、2012年から大学生の夏休み期間中に、延べ9日間にわたる就業体験型のインターンシップを実施しています。4年目となった2015年、当社では3つの大学のキャリアセンターの方にお集りいただき、当社の人事責任者とともに、改めてインターンシップの意義や課題、また、社会に求められる人材を創出するために必要なことなどについて、大学・企業のそれぞれの立場から意見交換を実施しました。

インターンシップの本来的な意義とその効果について

“多種多様な就業体験を通じ、働く意味を考えてもらうのが、当社のインターンシップの狙いです”

小泉産業・甲斐●まずは当社のインターンシップの特徴や狙いをお話するところから始めたいと思います。特徴のひとつ目は、グループ内の照明、家具、物流といった複数社で多種多様な就業体験が一度にできるということです。また、社是「人格の育成向上」に基づいた社員研修のノウハウを応用している点も大きな特徴です。具体的には、「働く」ということを深く考え、自分自身としっかり向き合い、実習での目標を設定したうえで、個人だけでなくチームでPDCAを回し、実習後の学生生活につなげていきます。こうした体験を通じ、最終的には「人間的な魅力あふれる社会人とは？」という問いに、自ら気づき、考える場を提供することが狙いです。



“リアルな現場体験で得た気づきによって、
残りの学生生活の過ごし方を考える有効なプログラム”

龍谷大学・伊勢戸●本学ではインターンシップはキャリア教育の一環と位置づけており、働く意味について考える、社会現場を踏まえた幅広い知識とスキルの吸収、大学での学びの再動機づけの3つをポイントに考えています。実際、参加した学生に、何に意義を感じたかアンケートをとると、一番多いのは「自分なりに働く意味を見つけられた」という回答です。小泉産業さんで実施していただいているような

【インターンシップの概要】

- 期間：8月末～9月中旬 ■ 実施日数：9日間
- 受入れ人数：6人 ■ 派遣大学：6校(協定型インターンシップ)
- 実習テーマと業務内容
グループ企業による多様な就業体験を通じ、社会人としての人間力を学ぶ
- ① 人間力向上研修体験プログラム：2日
- ② 営業同行を中心とした就業体験プログラム：
照明2日+家具2日=計4日
- ③ モノの流れを学ぶ就業体験プログラム：物流2日



営業同行などでリアルな現場を体験した結果、「学生生活をもっと充実させないといけない」という気づきも多く挙がっています。具体的な体験を通じ、働くことや残りの学生生活について深く考えていることが伺える結果からも、インターンシップは有効なキャリア教育プログラムだと考えています。

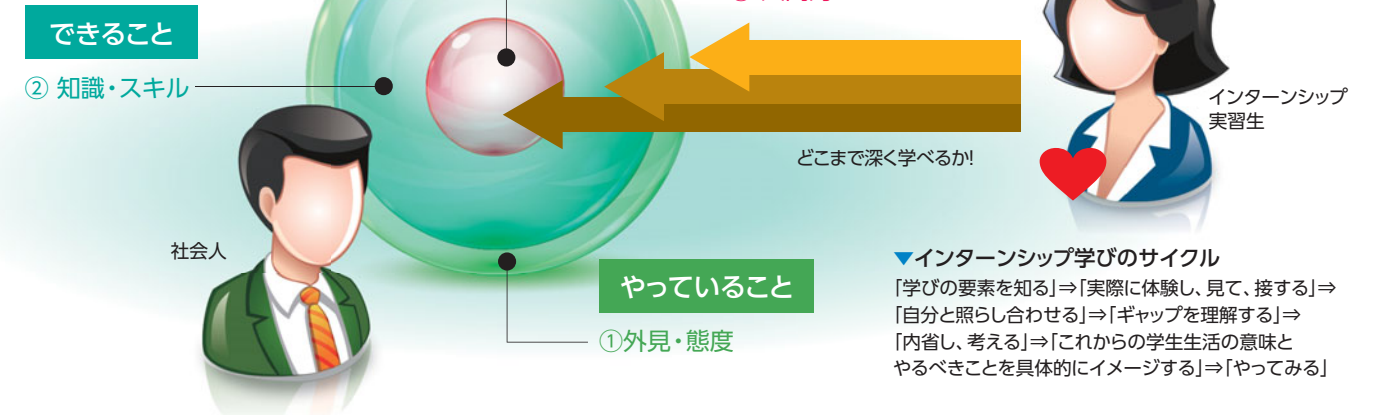
近畿大学・土井●「アルバイトと何が違うの？」と学生が感じるような作業に終始するインターンシップもある中で、小泉産業さんの実施内容は充実していますね。インターンシップには、就労観(働く意味)とリアルな体験による職業観(企業でどんな仕事をしているのか)を得るという2つの大きな目的がありますが、作業的なインターンシップではどちらも得ることができません。今の学生は働くことは辛く、お金儲けは悪といった偏ったイメージを持つ傾向があるので、実際、企業で社員は何を想い仕事をしているのか、生の姿を感じてきてほしいですね。そこで得た気づきによって勉強の目的が明確になることで、成長につながると考えています。

甲斐●確かに、スタート段階ではほとんどの学生が働くということにネガティブなイメージを持っていますね。まずはそこを変えなければせっかくの就業体験も効果が期待できないことになります。働くことはしんどいこともあるけれど、自分にとって意味のあることで本来は楽しいことであると伝えられたらと思っています。

大阪経済大学・黒正●本学でもインターンシップの意義は2大学と同様に捉えています。希望者は年々増加しているため、危機感を持って受け入れ企業を開拓していますが、相互の共通理解とマッチングが重要だと考えています。土井さんがおっしゃったように、就労観と職業観を得ることが本来のインターンシップの目的ですから、小泉産業さん

インターンシップ実習生に期待する学びの3階層

表面から見やすいこと(①)、わかりやすいこと(②)だけを学ぶだけでなく、社会人の仕事や人生についての想いや考え(③)までを実習生自らが引き出して学ぶ。(訊き出す力が必要)



のように、会社の中のいろんな役割を体験でき、働くことの意義を伝えていただけるような企業にお願いしたいと考えています。

“インターンシップに参加した学生と参加しなかった学生では、就職率に明らかな差が出ています”

伊勢戸●インターンシップに参加した学生と参加しなかった学生では、結果として就職率に明らかな差が出ています。**黒正**●本学でもそうです。意識が高い学生が参加していることもありますが、就職率から見ても教育的な効果は高いと評価しています。

土井●あえて言うならば、希望する会社や業界のインターンシップに参加できなくても、就労観、職業観が養われることで、就職活動時に視野が広がるなどのプラス効果は絶対にあると思います。

就職・採用活動の開始時期の変更によって生じているインターンシップの課題とは？

“夏のインターンシップが「就活のパスポート化」することが課題です”

黒正●今年は就活のスケジュールが後ろにずれて、3年生の夏に実施されている就業体験型インターンシップとは別に、4年生に上がる冬や春に会社説明型のインターンシップが大量に実施されるようになりました。その結果、学生は実施時期が違う2つのインターンシップの違いがわからず、非常に混乱していますね。そこで、本学では、3年生にはガイダンスを開いて、それぞれの目的の違いを説明し参加を勧めています。

伊勢戸●自分のキャリアを考えるための夏のインターンシップと違い、冬、春のインターンシップは採用直結型で



大阪経済大学
進路支援部長
黒正 洋史 様

龍谷大学
キャリアセンター
兼 インターンシップ支援オフィス
事務部長
伊勢戸 康 様

近畿大学
キャリアセンター
課長
土井 良介 様

小泉産業(株)
人事部 室長
甲斐 和弘 様

採用活動の一環であることを、我々もきちんと説明しないといけないと思っています。

甲斐●当社でも冬のインターンシップは採用活動を視野に入れています。問題は、就業体験を通じ社会人になる意識を持ち、主体的に自分は何をすべきかをじっくり考えることが目的のはずの夏のインターンシップも、就活のためのパスポートだと誤解している学生が増えていることだと思っています。

土井●学生は就活を通じて大きく成長しますが、それは選考が進むほど現実と直面し、内省する時間を持つから。なのに、「参加しないと就活で不利になるのでは」「周りが行っているから」という消極的な理由で、名前を知っている企業のインターンシップにとりあえず参加する学生も存在しています。

甲斐●結果、十分な就労観、職業観を養う機会を持たず、何がしたいのか深く考えないまま入社してしまうと、本当にモチベーションを維持しながら活躍する人材に育っていくのかという点が、企業としては懸念されるところです。

伊勢戸●学生が企業と接点を持つという意味では冬・春も有効ですが、夏と同じ「インターンシップ」という名前を使うと学生にとって紛らわしいですね。



です。たとえコミュニケーション力に多少課題があったとしても、物事を主体的に捉えて行動できれば、その必要性から自ら努力し、必然的に身に付いてくるものだからです。すべての原点である主体性がないまま、いくら専門的な知識やスキルを得ても、どここの企業でも通用せず、まして社会に貢献できるような“人財”にはならないと考えています。

黒正●本学でも、人と関わる力や主体的に物事を考えて行動する力、問題意識などを基礎的な能力として重視しています。こうした基礎力がないと、どんな高度な仕事もできないし、グローバル化の中で異文化の人と対等にやっていけないと思うからです。

伊勢戸●しかし、主体性は、今の学生からなかなか見えてこないですね。モノがあふれ、受け身でも生きていける時代に育ったため、主体性がないというより、発揮する場面に遭遇していないのだと思います。主体性を持ってもらえるような仕掛けづくりが今後、大学でも求められているのかなと思います。

土井●インターンシップでもクラブ活動でも、学生が主体的に動けるようなきっかけづくりをするのが、私たちの役目かもしれないですね。

甲斐●お話を伺って、学生が育ってきた環境変化も踏まえ、いっそう学生の身になったインターンシップにレベルアップしなければならないと思いました。大学のキャリア教育が企業の人財育成とも切れ目なくつながっていることも再確認できましたので、今後も大学の皆さんと情報や意見を交換させていただき、インターンシップの本来の意義・目的を追求していきたいと思っています。本日はありがとうございました。

社会から求められる、 社会全体に役立つ人材育成のために

“主体性を持った世界に通用する人材を、
企業と大学が連携して、創出していきたい”

甲斐●当社では学生の資質で最も重視しているのが主体性、すなわち何事も自分ごととして捉えられるかどうか

社は「人格の育成向上」を目指し、 “人財”の集合体である「自ら行動するプロ集団」へ

「道学」と「実学」を組み合わせたコイズミアカデミー

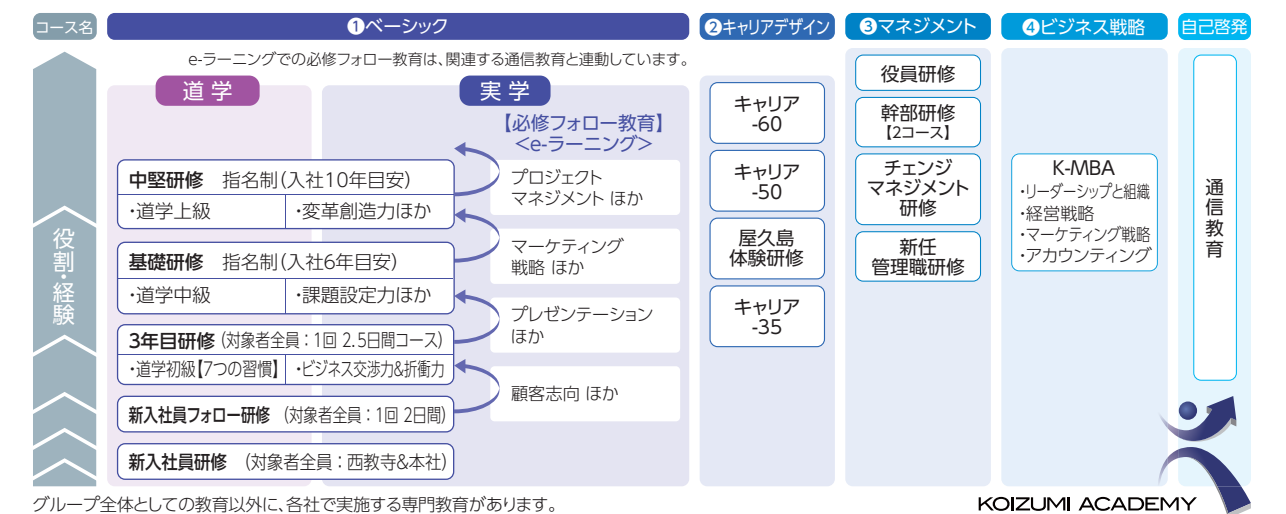
「人格の育成向上」を社是に掲げる小泉産業(株)では、お客様や仲間に愛され信頼される人間的魅力あふれる人財育成を目指し、「コイズミアカデミー」という学びの道場で切磋琢磨する社員教育に力を入れています。

最大の特徴は「自らのあり方」を考え、学び、探求する「道学」(人間学)と、実務で活用する「実学」(知識・スキル)を組み合わせ実施していること。①新入社員の西教寺(滋賀県)での合宿研修に始まり、半年、3年、基礎(6年)、中堅(10年)と全社員が受講するベーシックコース、②大自然を“講師”に学ぶ屋久島研修を含むキャリアデザイン

コース、③外部派遣で他企業の方々との“他流試合”を経験する幹部研修などの選抜型マネジメントコース、④経営戦略やマーケティング、アカウンティング、リーダーシップの基礎を学ぶビジネス戦略コースの4コースあり、全14カリキュラムにまで内容の充実を図ってきました。

当社が考える“人財”とは、しっかりとした目的意識を持ち、本質を考えられる人間力をベースに、知識・スキルを兼ね備える人です。こうした“人財”による“自ら考え行動するプロ集団”として、新たな価値を提供し続けていける企業グループを目指しています。

■ コイズミアカデミー人財育成体系図



Stakeholder's Voice

インターンシップが産学連携の 取り組みであると再認識する機会に

本日、参加して、改めてインターンシップは産学連携のプログラムであると感じました。課題も抱えつつ、企業と大学が原点に立ち返り、共通認識を持ってブラッシュアップしていけば、最終的に社会に役立つ人材育成につながっていくという意味で、今後も情報交換の場を持っていたいただければありがたいと思います。

龍谷大学
伊勢戸 康 様



Stakeholder's Voice

インターンシップについて深い 話ができて、貴重な経験になりました

企業や大学の方とお話する機会はあるても、インターンシップについて時間をとって話したことはなく、大変貴重な経験をさせていただきました。他の大学の取り組みもですが、社会貢献的な考えに基づく、小泉産業さんの人材育成方針を理解できたことで、今後、学生に自信を持って小泉産業さんのインターンシップを勧めることができます。

近畿大学
土井 良介 様



Stakeholder's Voice

小泉産業の人材育成の考え方や 他大学の取り組みを聞け、有意義でした

小泉産業の会社の理念や人材育成の考え方を改めてお聞きし、大変勉強になりました。社は「人格の育成向上」は本学の教育理念にも共通するものがあり、共感しました。また、他大学の考え方や本学にはない取り組みをお聞きできたことも有意義でした。貴重な場に参加させていただき、ありがとうございました。

大阪経済大学
黒正 洋史 様



創業時からの“三方よし”の考えのもと グループ全体で社会的責任を果たしていきます

CSRマネジメント

理念に基づく4つの要素を柱にグループ全体でCSRを推進

当社グループは、創業の源流にある近江商人の“三方よし”の考え方のもと、300年の歴史を通して、時代とともに変化する企業の社会的責任（CSR）を果たすべく努めてきました。

2006年のグループ経営以降、グループ理念のもと「コンプライアンス&リスクマネジメント」「品質マネジメント」「環境マネジメント」「コーポレートブランドマネジメント」を4つの柱に、グループ全体でCSRを推進しています。

第四次中期経営計画（2015～2017年）では、2016年の小泉グループ創業300年を成長の節目ととらえ、「創業時より培ってきたDNAを受け継ぎ、新たな価値創造に挑戦する」ことで社会的責任を果たすグループ企業を目指しています。

品質・環境マネジメント

ISOをマネジメントツールに顧客満足度向上と環境保全を推進

当社グループは、経営品質の確保による顧客満足度の増大、環境経営の推進による環境負荷低減を実現するため、それぞれ品質と環境経営の国際標準規格であるISO9001とISO14001を認証取得し、経営に反映しています。2013年度からは、外部審査機関による認証審査を品質・環境ISOとも同時に受審し、より経営と一体化させたPDCAサイクルでの運用を図っています。

ISO14001については、2014年度末時点で照明の製造工場2社を含め8社、9事業所が認証を取得。2015年度は適用範囲を拡大する予定です。また、ISO14001を取得していない事業所についてもグループ共通の環境管理規定を制定し、省資源、廃棄物の適正処理、省エネ、物品・サービスのグリーン調達を、日常の運用にあてはめて取り組んでいます。

2015年度には国際規格が改訂発行されますが、より広い観点で品質・環境リスクを明確に捉え、継続的改善を図りながら、2017年度末までに新規格要求事項への適応移行ができるよう取り組んでいきます。

コンプライアンス&リスクマネジメント

グループ全従業員にWEBコンプライアンス研修を継続的に実施

グループ各社では、コンプライアンスを重視した経営の実践を重要課題に、従業員一人ひとりがコンプライアンス意識を持ち、行動できるよう、教育・啓発を行っています。

2014年度も、グループのイントラネットを活用した出題回答形式のWEBコンプライアンス研修を4回実施しました。働き方、ハラスメント、情報管理などコンプライアンスの幅広い課題について共通理解を深め、意識啓発を促しています。

また、毎年10月を「コイズミ倫理月間」と定め、「グループ倫理行動ガイドライン」を唱和するなど、企業倫理の意識を高める活動を継続しています。2014年度はWEBを活用した倫理月間特別講座を開設し、企業情報漏洩に関して注意を喚起しました。

今後も、さまざまな課題について反復的に教育研修を重ねることで、グループ全体のコンプライアンスリスクを回避するための体質の強化に努めていきます。

■ CSRマネジメントの構造

コーポレートブランドマネジメント

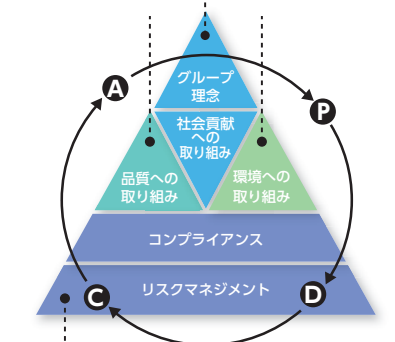
“グループ理念体系”に基づいて、コーポレートブランド価値の最大化を図り、社会に愛され信頼される企業をめざす

品質マネジメント

ISO9001を基本に製品品質はもろろんのこと経営品質の向上に取り組む

環境マネジメント

ISO14001を基本にサプライチェーンを含めた環境経営の推進に取り組む

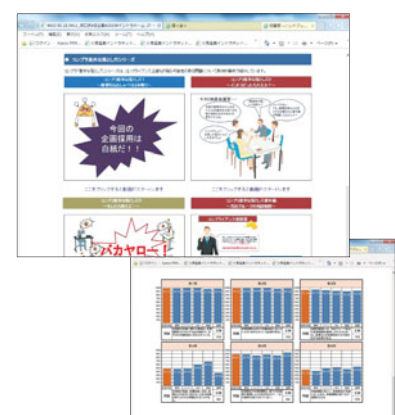


コンプライアンス&リスクマネジメント

コンプライアンスとリスク管理という視点から管理項目を洗い出し、社内ルールを整備・維持・管理する



ISO内部監査



照明の2工場で、太陽光発電事業を開始

小泉産業（株）は、コイズミ照明（株）の生産拠点であるコイズミライティング（株）（滋賀県東近江市）と青垣コイズミ照明（株）（兵庫県丹波市）で、工場の屋根上に設置した太陽光発電システムによる発電事業を2014年度より開始しました。東近江発電所は286kW、青垣発電所は397kWのシステム規模で、合わせて年間約64万kWhを発電できる見込みです。これを原油に換算すると146kLの削減になり、203tのCO₂削減に貢献できます。当事業は再生エネルギー固定価格買い取り制度を活用するもので、創り出した電力はすべて関西電力へ売電供給します。

製品ライフサイクルの全段階で環境負荷の低減を目指す当社グループの取り組みのひとつとして、工場施設の有効活用によって再生可能エネルギーの増大に貢献しています。

全国の事業所で地域清掃活動を実施

当社グループでは、各社の国内全事業所で、周辺の清掃美化活動を実施しています。2014年度も、札幌から沖縄のすべての事業所53カ所で清掃活動を実施し、地域美化に貢献することができました。各事業所の活動状況は、社内のイントラネットを通じて全社に発信し、グループ内で共有しています。

こうした活動は、事業所近隣の皆様とのコミュニケーションを生むきっかけにもなっています。年間を通じて定期的に活動している事業所もあり、それぞれの自主的な取り組みとして活動が定着し、継続されるように推進を図っています。

「企業のコンプライアンス」をテーマに

大学への出前講座で学生の社会教育を支援

小泉産業（株）では、法務担当の社員が大学からの要望を請けて「企業のコンプライアンス（法令順守）と社会的責任」を題材にした学生向け出前講座を実施しています。2008年度に始めたこの取り組みは、就職活動を控えた大学生の皆さんにコンプライアンスの重要性を理解していただく機会を提供することで、社会に貢献したいという想いを持って継続しています。

また、大学コンソーシアム大阪でインターンシッププログラムに臨む皆さんへの準備教育講座も5年目となり、加盟44大学、約200名の学生に受講していただきました。企業の社会的責任とその土台になるコンプライアンスについて、学生と社会人の立場の違いを踏まえ理解を深められるよう、内容の工夫を重ねています。

NPOのAED講習会を継続的に支援するとともに、 新入社員研修での救命講習を定例化

当社グループは、全国のコイズミ照明（株）のショールームや来客者が多い事業所など6カ所に、AED（自動体外式除細動器）を設置しています。

また、2009年度から、NPO法人大阪ライフサポート協会がAEDを使った心肺蘇生法の普及を一般市民に図る講習会の会場として、小泉産業（株）本社の大会議室の使用提供を続けています。2014年度は5回の講習会が開催され37名が参加されました。

当社グループの新入社員研修にもAED講習会を組み込み、いざという時に躊躇せずに役立つ従業員救命員化拡大を図っています。2014年度も36名の新入社員が受講しました。



東近江発電所



青垣発電所



東京支社別館

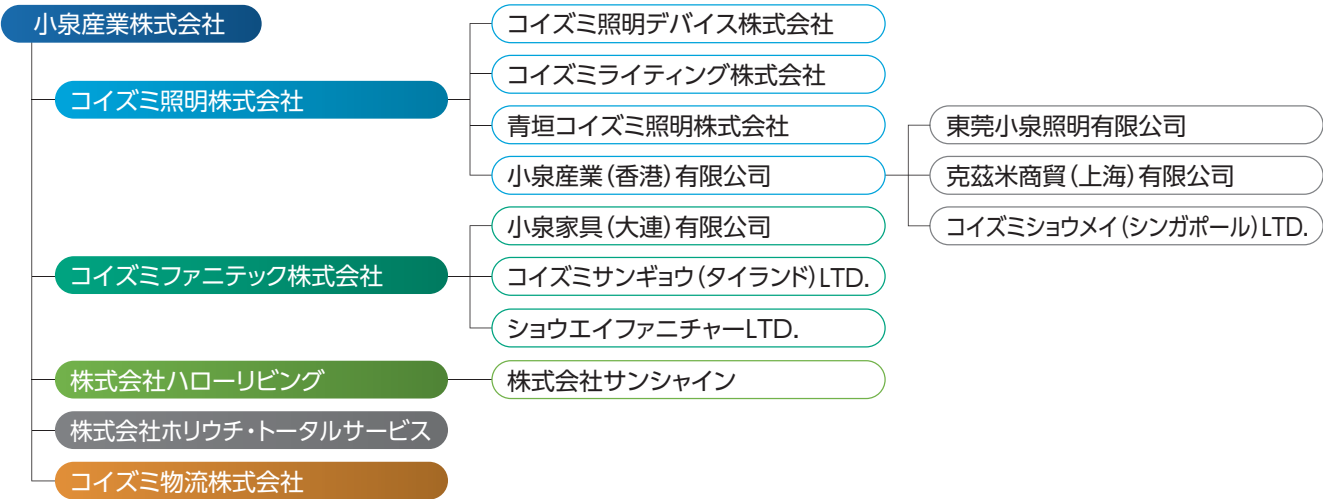


京滋営業所



小泉産業グループ各社の概要

小泉産業グループ 2015年度 小泉産業グループの体制



小泉産業株式会社	
商 号	小泉産業株式会社
本社所在地	〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7
代 表 者	代表取締役社長 梅田 照幸
創 業	1716年(享保元年)
設 立	1943年6月25日
資 本 金	1,575百万円
従 業 員	80名(単体)
事業内容	持株会社
子 会 社	16社(うち連結対象 10社)
売 上 高	2,802百万円(単体)

コイズミ照明株式会社	
商 号	コイズミ照明株式会社
本社所在地	〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7
代 表 者	代表取締役社長 梅田 照幸
設 立	2006年4月1日
資 本 金	450百万円
従 業 員	619名
事業内容	照明器具の企画・開発・製造・販売
売 上 高	33,906百万円

コイズミ照明デバイス株式会社	
商 号	コイズミ照明デバイス株式会社
本社所在地	〒559-0031 大阪市住之江区南港東8-4-47 プロロジスパーク大阪5 3階
代 表 者	代表取締役社長 梅田 照幸
設 立	1981年6月8日
資 本 金	10百万円
従 業 員	30名
事業内容	LED用部材他照明器具構成部品の販売、輸出入、照明器具組立
売 上 高	11,866百万円

コイズミライティング株式会社	
商 号	コイズミライティング株式会社
本社所在地	〒529-1512 滋賀県東近江市大塚町1289-2
代 表 者	代表取締役社長 吉田 卓
設 立	1966年10月20日
資 本 金	100百万円
従 業 員	113名
事業内容	照明器具の製造
売 上 高	2,602百万円

青垣コイズミ照明株式会社	
商 号	青垣コイズミ照明株式会社
本社所在地	〒669-3841 兵庫県丹波市青垣町 口塩久町田733-5
代 表 者	代表取締役社長 谷垣 正則
設 立	2010年4月5日
資 本 金	80百万円
従 業 員	120名
事業内容	照明器具の製造
売 上 高	2,706百万円

小泉産業(香港)有限公司	
商 号	小泉産業(香港)有限公司
本社所在地	Units A-B, 26th Floor, 8 Hart Avenue, Tsimshatsui, Kowloon, Hong Kong
代 表 者	董事長 中島 誠一
設 立	2002年3月11日
資 本 金	HK\$2,078,000
従 業 員	12名
事業内容	照明器具の企画・開発・製造・販売
売 上 高	HK\$256,954,049

東莞小泉照明有限公司	
商 号	東莞小泉照明有限公司
本社所在地	No.12, Information & Industry Garden, Xihu District, Shilong Town, Dongguan City, Guangdong Province, P.R.China
代 表 者	董事長 中島 誠一
設 立	2009年7月20日
資 本 金	HK\$2,000,000
従 業 員	225名
事業内容	照明器具の開発設計・組立製造・販売
売 上 高	144,837千円

克茲米商貿(上海)有限公司	
商 号	克茲米商貿(上海)有限公司
本社所在地	RM11105, Tower NO.440, Zhong Shan RD.(S.2) Shanghai, China
代 表 者	董事長 杉本 健
設 立	2006年11月15日
資 本 金	US\$400,000
従 業 員	50名
事業内容	照明器具の企画・販売他
売 上 高	76,825千円

コイズミショウメイ(シンガポール)LTD.	
商 号	KOIZUMI LIGHTING TECHNOLOGY (SINGAPORE) CORPORATION PTE. LTD.
本社所在地	10 Anson Road #17-06 International Plaza, Singapore 079903
代 表 者	Director(CEO) 中島 誠一
設 立	2014年12月1日
資 本 金	SGD400,000
従 業 員	3名
事業内容	照明器具の企画、販売
売 上 高	SGD3,000,000(当年度見込)

コイズミファニテック株式会社	
商 号	コイズミファニテック株式会社
本社所在地	〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-1 大阪本町西第一ビルディング2階
代 表 者	代表取締役社長 川上 隆司
設 立	2006年4月1日
資 本 金	100百万円
従 業 員	93名
事業内容	学習環境家具及び介護機器等の企画・開発・製造・販売
売 上 高	6,214百万円

小泉家具(大連)有限公司	
商 号	小泉家具(大連)有限公司
本社所在地	12/F, Senmao Building, 147 Zhongshan Road, Dalian, China
代 表 者	董事長 川上 隆司
設 立	2010年5月5日
資 本 金	HK\$210,000
従 業 員	5名
事業内容	学習環境家具・インテリア雑貨の小売・卸売
売 上 高	1,921千円

コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.	
商 号	コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.
本社所在地	26th Floor ITF Tower・140/64 Silom Road Bangrak Bangkok 10500
代 表 者	代表取締役社長 宗本 邦嗣
設 立	1995年5月24日
資 本 金	THB5,000,000
従 業 員	9名
事業内容	家庭用家具・店舗用家具・特注家具・店舗用仕器の企画・開発・製造・販売
売 上 高	THB66,404,695.88

ショウエイファニチャーLTD.	
商 号	SHOUEI FURNITURE Co.LTD.
本社所在地	14/3 Ban Bung-klaeng Rd.,Tumbol Tangkwien Amphur Klaeng, Rayong Province 21110, Thailand
代 表 者	代表取締役社長 宗本 邦嗣
設 立	1981年7月2日
資 本 金	THB20,000,000
従 業 員	163名
事業内容	家具(テーブル、椅子)の製造、販売
売 上 高	THB78,000,000(当年度見込)

株式会社ハローリビング	
商 号	株式会社ハローリビング
本社所在地	〒579-8025 大阪府東大阪市宝町12-5
代 表 者	代表取締役社長 石尾 泰裕
設 立	1981年7月2日
資 本 金	20百万円
従 業 員	33名
事業内容	住宅設備機器の販売・取付工事
売 上 高	2,088百万円

株式会社サンシャイン	
商 号	株式会社サンシャイン
本社所在地	〒813-0034 福岡市東区多の津3-7-29
代 表 者	代表取締役社長 石尾 泰裕
設 立	1975年7月1日
資 本 金	10百万円
従 業 員	16名
事業内容	住宅設備機器の販売・取付工事
売 上 高	863百万円

株式会社ホリウチ・トータルサービス	
商 号	株式会社ホリウチ・トータルサービス
本社所在地	〒143-0022 東京都大田区東馬込2-19-11
代 表 者	代表取締役社長 権藤 浩二
設 立	2003年4月1日
資 本 金	70百万円
従 業 員	77名
事業内容	ホテル、会社施設等への家具・什器・設備等の搬入設置業務
売 上 高	2,360百万円

コイズミ物流株式会社	
商 号	コイズミ物流株式会社
本社所在地	〒579-8025 大阪府東大阪市宝町12-5
代 表 者	代表取締役社長 西原 久人
設 立	1999年5月25日
資 本 金	50百万円
従 業 員	95名
事業内容	貨物自動車運送取扱事業、貨物自動車運送事業、倉庫業物流システム開発販売業務、物流コンサルタント業務、引越し・据付業務、その他上記に付帯する関連業務
売 上 高	5,166百万円

※2014年度実績

編集後記

このレポートは当社グループの1年間を振り返り、事業活動をはじめとする社会や市場への対応の状況やCSRへの取り組みについてお伝えするものです。

昨年度まで小泉成器(株)と取り組んだブランド推進プロジェクトの活動が実を結び、今年度から全社によるブランド推進活動に移りました。10月には「__違う発想がある」というブランドステートメントと共に一新したブランドロゴを発表し、将来の変化に対応できる強いブランド作りのために、各社が力を合わせて価値共創していくことを約束しています。当レポートでは経営者のメッセージと特集ページで紹介しておりますので是非ご覧ください。

また、事業を通じて各社が目指している事柄から、照明事業では

モノ作りにおけるデザインと快適さ実現のためのパートナーとの取り組み。家具事業では新シリーズSTUDY UP DESKの開発の発想について。物流その他の事業では協働・環境・安全につながる取り組み。グループ全体では社会貢献活動とインターンシップの実施について。それぞれ実際に関わっていただいた方々にご登場願ひ、できるだけありのままの姿が伝わる編集を心掛けました。ご一読いただくことで、当社グループのご理解につながれば幸いです。

末筆となりましたが、作成に際していただきました、たくさんの方々からのご協力に心より感謝を申し上げます。

グループ経営統括部 総務室 CSRグループ

ご意見・ご感想をお聞かせください。URL <http://www.koizumi.co.jp/csr/>

小泉産業株式会社

発行:2015年11月

〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7

TEL.06-6262-1391 FAX.06-6262-1490

E-mail csrinfo@koizumi.co.jp

<http://www.koizumi.co.jp/>



この印刷物に使用している用紙は、岩手県の森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



適切に管理された森林で生産された木材を使ったFSC®認証紙を使用しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。



印刷工程では、有害な廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。